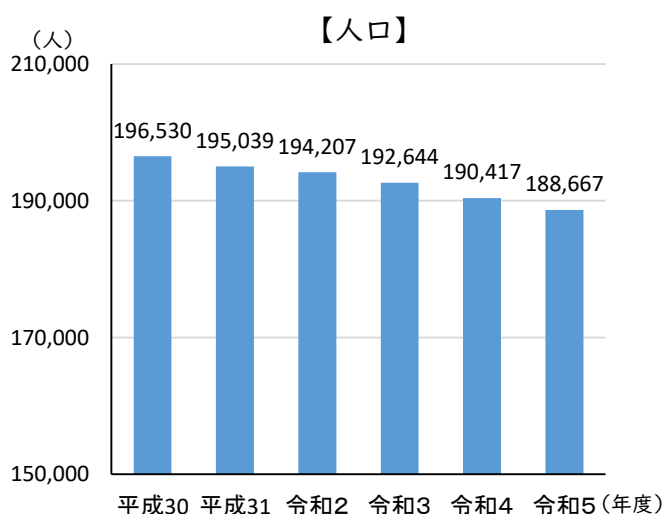


第2章 沼津市の現状と課題

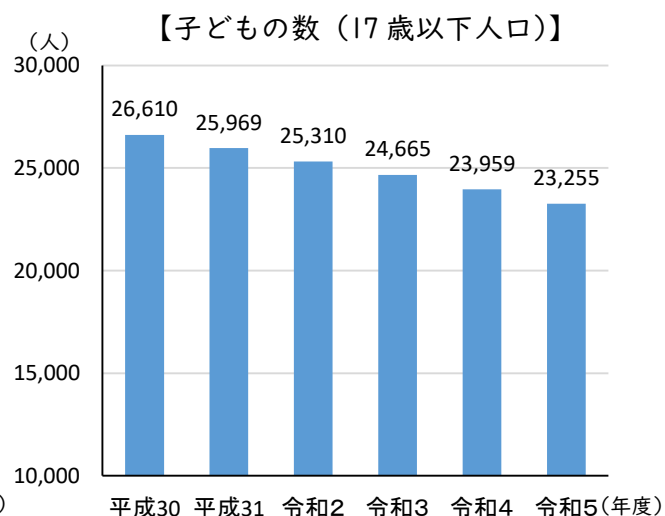
1. 統計資料から見られる現状

(1) 人口・子どもの数・ひとり親世帯の推移

本市の人口は減少傾向で推移しており、令和5（2023）年現在では188,667人となっています。また、17歳以下の子どもの数も同様に減少し続けており、令和5（2023）年現在で23,255人となっています。

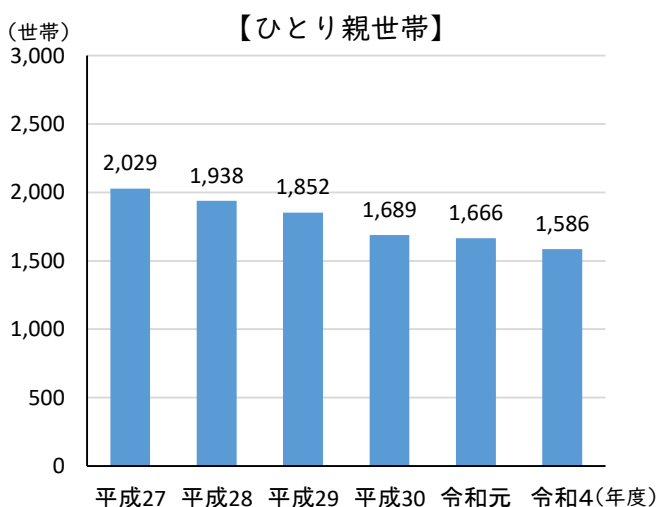


資料：沼津市統計書（4月1日現在）



資料：沼津市統計書（4月1日現在）

ひとり親世帯については減少傾向で推移しています。



資料：母子・父子家庭調査（3月1日現在）

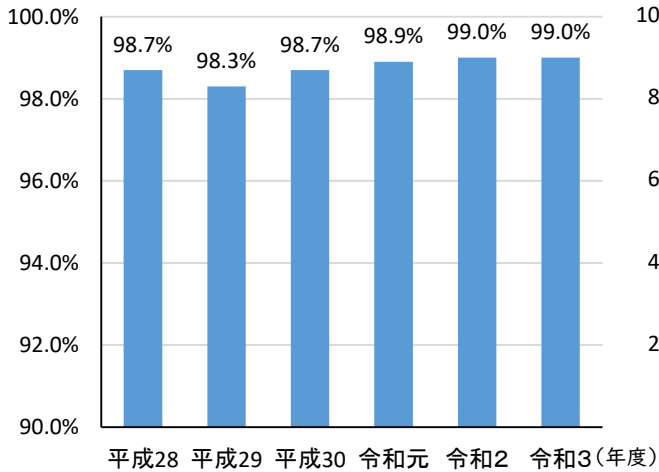
※令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため調査未実施



(2) 高校進学率、大学進学率の推移

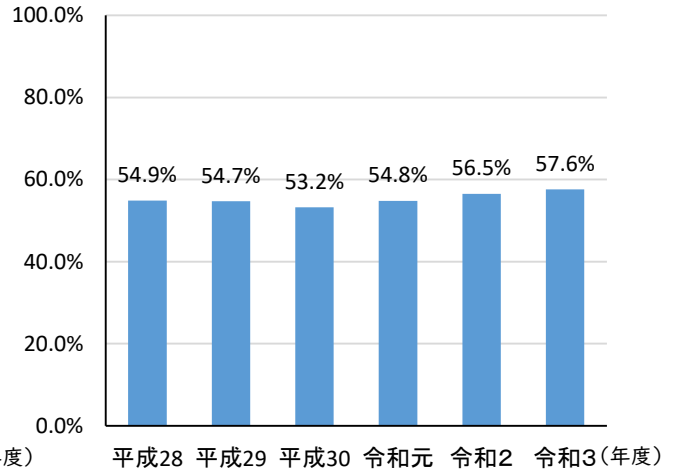
本市の高校進学率は99%を超えており、ほとんどの市民が高校に進学していると言えます。また、大学進学率は令和3（2021）年現在で57.6%となっています。

【高校進学率（全世帯）】



資料：静岡県学校基本統計（3月31日現在）

【大学進学率（全世帯）】

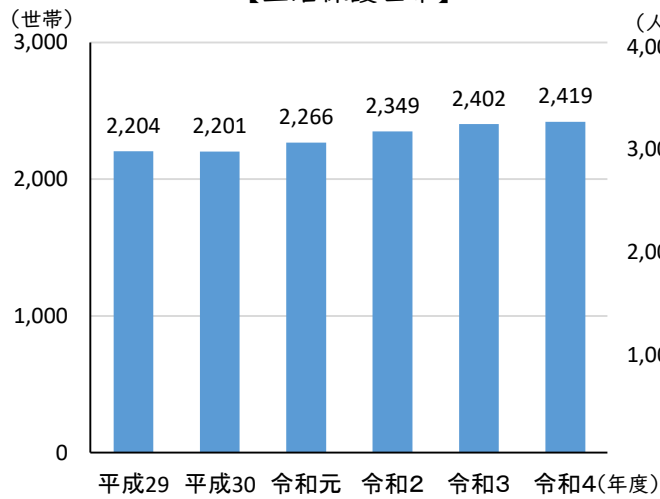


資料：静岡県学校基本統計（3月31日現在）

(3) 生活保護世帯の推移

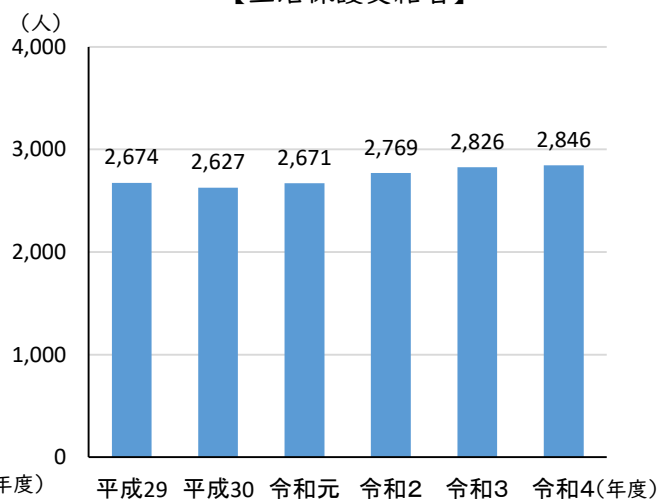
生活保護を受給している世帯は約2,400世帯、受給者数は約2,800人で推移しています。

【生活保護世帯】



資料：沼津市統計書（3月31日現在）

【生活保護受給者】



資料：沼津市統計書（3月31日現在）

2. 本市の状況（実態調査の主な結果等）

（1）生活実態調査

【調査の目的】

本市では、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう「沼津市子どもの貧困対策推進計画」を策定し、「教育の支援」、「生活の支援」、「保護者の就労支援」、「経済的支援」の4つの重点施策と、それらをつなげる「支援ネットワークの推進・活用」を含めた5つの施策を柱として、子育てしやすい環境づくりや子どもたちの健やかな成長のため子育て支援施策の充実に取り組んできました。

引き続き、これらの施策を総合的に推進するにあたり、より効果的な支援のあり方について検討するため、本調査を実施しました。主な調査項目は、市内の子どもの生活状況や貧困実態を把握すること、支援制度の利用状況と問題点に関わるものとなっています。

【調査の概要】

- ・調査対象：市内の小学5年生・中学2年生の児童・生徒及びその保護者
- ・調査時期：令和4年9月2日～9月22日
- ・調査方法：学校にて配布・回収
- ・回収状況

	配布数	有効回収数	有効回収率
小学5年生	1,255	1,197	95.4%
小学5年生 保護者	1,255	1,197	95.4%
中学2年生	1,465	1,340	91.5%
中学2年生 保護者	1,465	1,340	91.5%
計	5,440	5,074	93.3%

【調査の内容】

<保護者>

- ①世帯の状況
- ②子どもの生活環境・社会環境
- ③子どもの学習環境
- ④保護者の生活環境・子育て環境
- ⑤市の支援制度の利用・認知、ニーズ

<児童・生徒>

- ①生活環境・生活状況
- ②人間関係について
- ③学校生活・将来への希望
- ④自己肯定感等
- ⑤サービス等へのニーズ

【調査結果を読むにあたって】

■本報告書を読む際の注意点 ※各アンケート共通

- ・比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、比率の合計が100%にならないことがあります。
- ・基準とする実数は、図表中に（n=）として記載しました。比率はこの基数を100%として算出しています。
- ・質問の選択肢から複数の回答を認めている場合、比率の合計は100%を超えます。
- ・文中、グラフ中の選択肢の文言は作図等の都合により一部簡略化しています。

■「子どもの貧困世帯」の定義

本計画策定のために実施した「沼津市子育て世帯の生活実態調査」では、「子どもの貧困世帯」に該当する世帯と主な設問をクロス集計して分析しています。

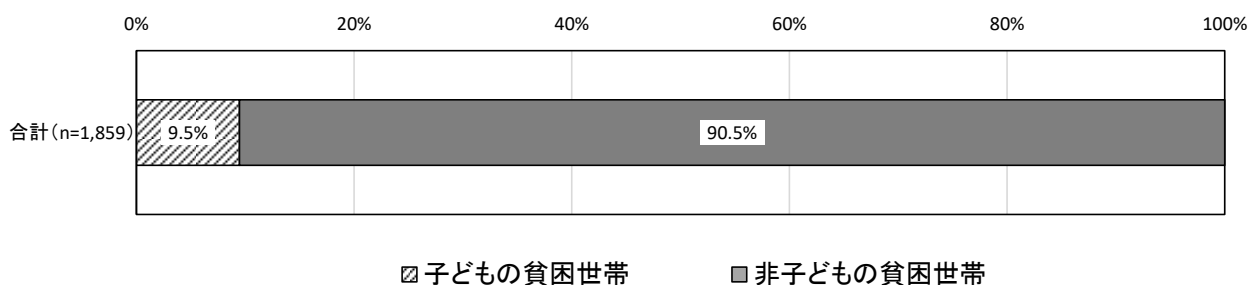
厚生労働省では、「子どもの貧困率」を「17歳以下の子ども全体に占める、貧困線に満たない17歳以下の子どもの割合」と定義しています。

貧困線とは、世帯全員に占める、等価可処分所得（世帯収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる「手取り収入」を、世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいいます。令和5（2023）年7月に公表した最新の国民生活基礎調査では、貧困線は127万円でした。

本調査については、世帯の児童数をもとに等価可処分所得を算出し、127万円未満の世帯を「子どもの貧困世帯」、127万円以上の世帯を「非子どもの貧困世帯」としました。

なお、等価可処分所得を算出できなかった678世帯については、全体の集計には含まれますが、「子どもの貧困世帯」「非子どもの貧困世帯」の集計には含まれません。

【沼津市の子どもの貧困率】

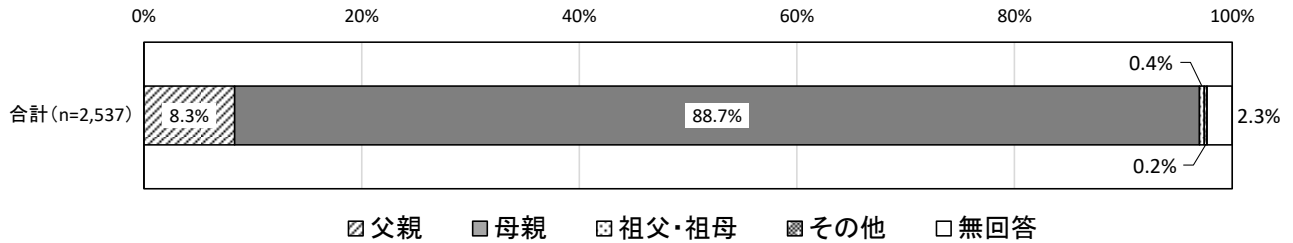


沼津市の子どもの貧困率は9.5%となり、
前計画時（10.0%）より改善されています。

【調査結果（保護者）】

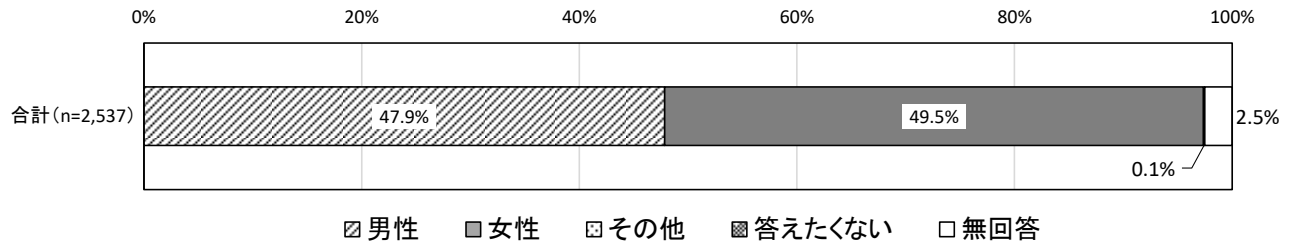
①回答者の属性

【回答者の続柄】



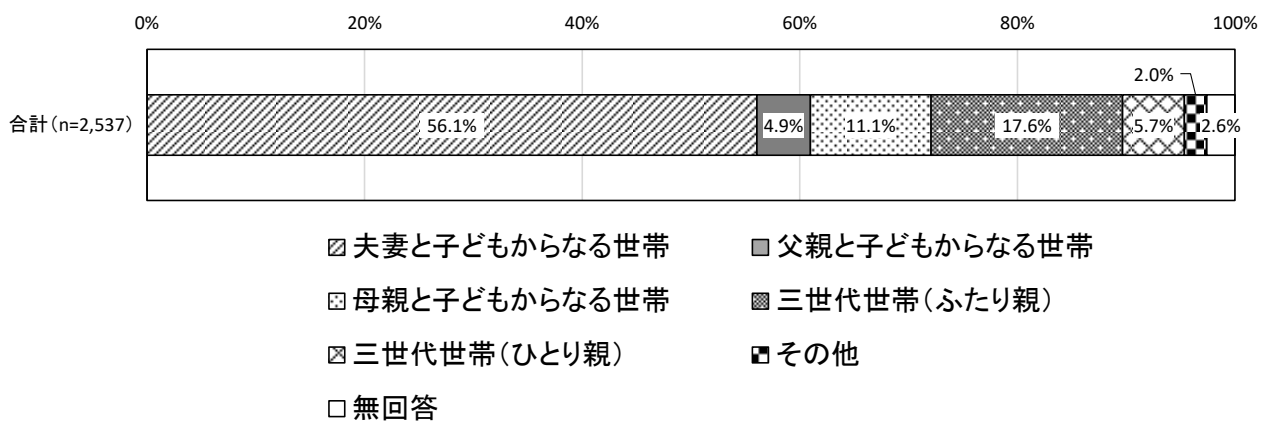
回答者の続柄については、「母親」(88.7%)が最も多く、次いで「父親」(8.3%)となっています。

【お子さんの性別】

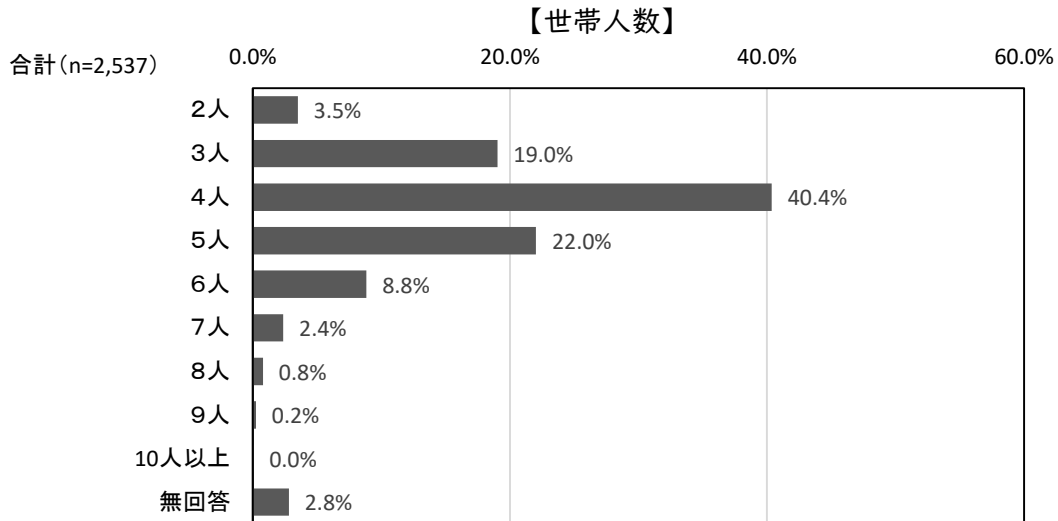


お子さんの性別については、「男性」が47.9%、「女性」が49.5%、「答えたくない」が0.1%となっています。

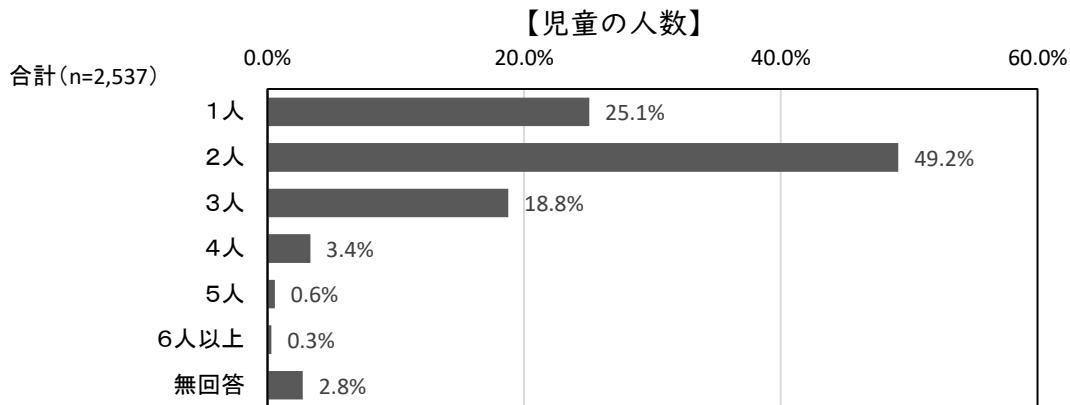
【世帯構成】



世帯構成については、「夫妻と子どもからなる世帯」(56.1%)が最も多く、次いで「三世代世帯(ふたり親)」(17.6%)、「母親と子どもからなる世帯」(11.1%)の順となっています。



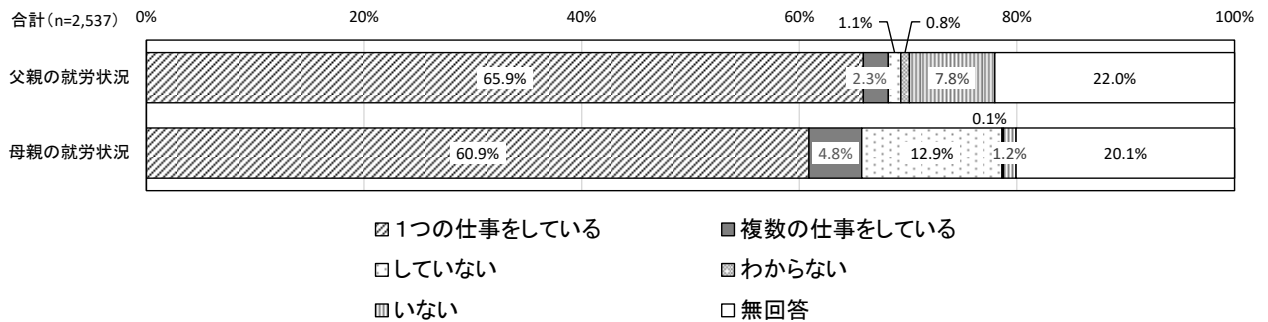
世帯人数については、「4人」(40.4%)が最も多く、次いで「5人」(22.0%)、「3人」(19.0%)、「6人」(8.8%)の順となっています。



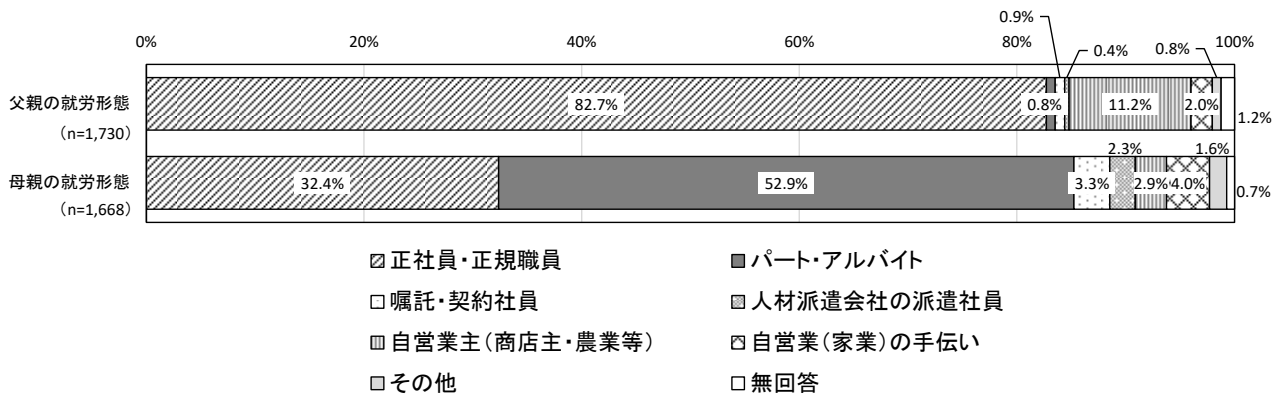
児童の人数については、「2人」(49.2%)が最も多く、次いで「1人」(25.1%)、「3人」(18.8%)の順となっています。

②両親の収入等

【両親の就労状況と就業形態】



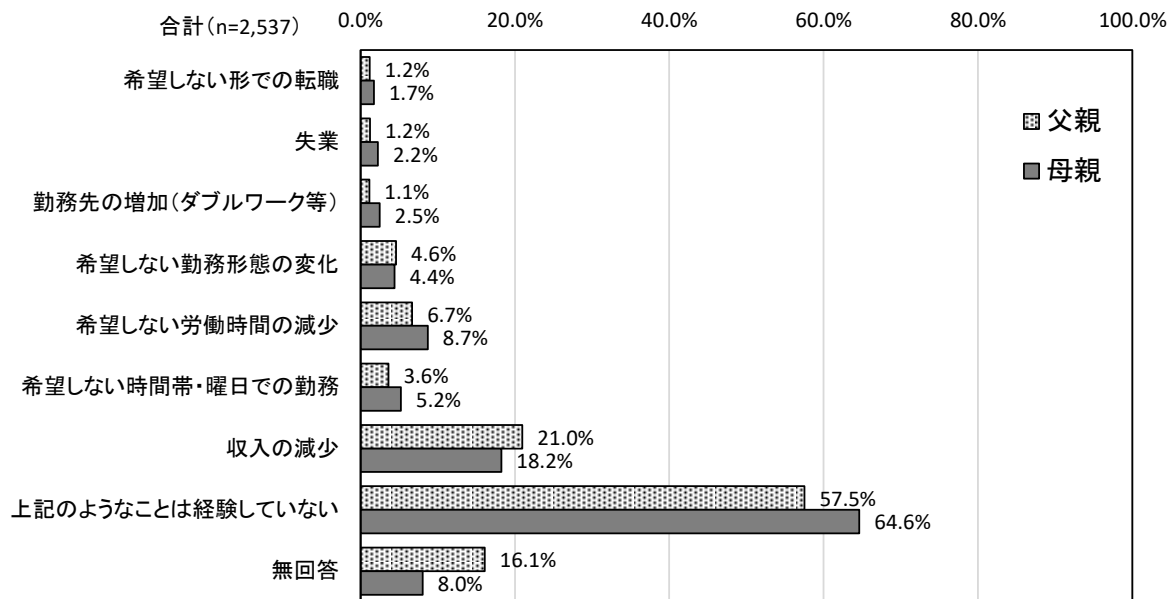
父親の就労状況については、「1つの仕事をしている」(65.9%)が最も多く、次いで「いない」(7.8%)となっています。また、母親の就労状況については、「1つの仕事をしている」(60.9%)が最も多く、次いで「していない」(12.9%)、「複数の仕事をしている」(4.8%)の順となっています。



父親の就業形態については、「正社員・正規職員」(82.7%)が最も多く、次いで「自営業主(商店主・農業等)」(11.2%)となっています。また、母親の就業形態については、「パート・アルバイト」(52.9%)が最も多く、次いで「正社員・正規職員」(32.4%)、「自営業(家業)の手伝い」(4.0%)の順となっています。

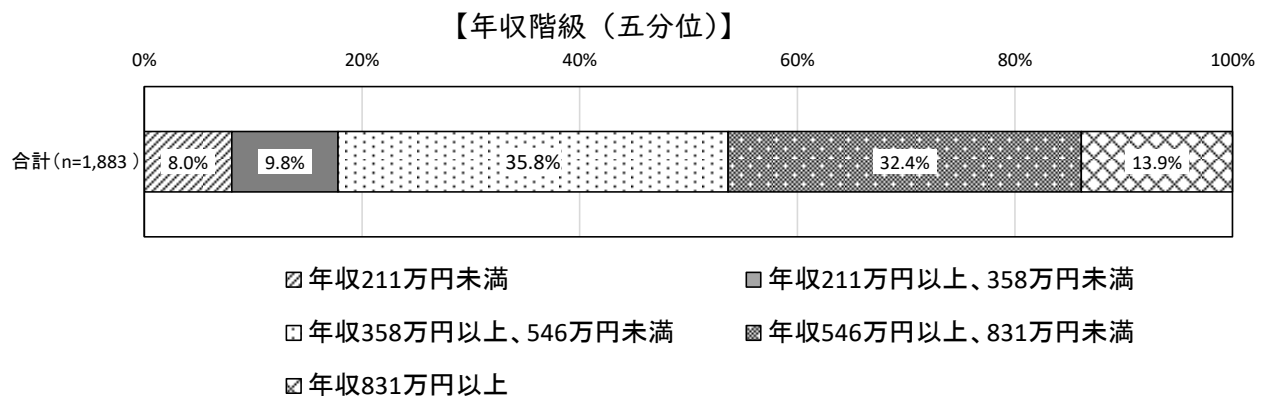
③新型コロナウイルス感染症拡大の影響

【新型コロナウイルス感染症拡大の影響による各種経験の有無】



父親・母親とも「上記のようなことは経験していない」(57.5%)・(64.6%)が最も多く、次いで収入の減少(21.0%)・(18.2%)、希望しない労働時間の減少(6.7%)・(8.7%)の順となっています。

④年収階級（五分位）

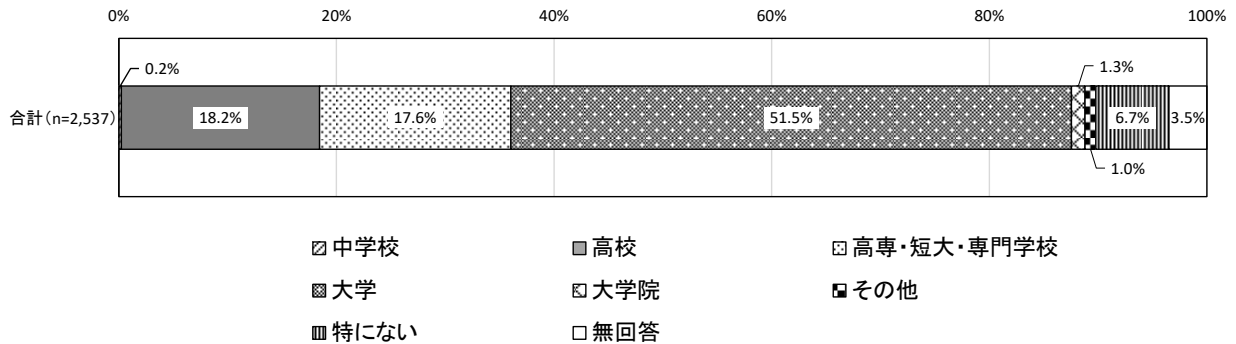


年収階級（五分位）^{*}については、「年収358万円以上、546万円未満（第3五分位）」(35.8%)が最も多く、次いで「年収546万円以上、831万円未満（第4五分位）」(32.4%)、「年収831万円以上（第5五分位）」(13.9%)の順となっています。

※本調査では、所得五分位階級で世帯収入を年収階級別に整理しました。所得五分位階級とは、全世帯を所得の低いものから高いものへと順に並べて5等分し、所得の低い世帯群から第1・第2・第3・第4及び第5五分位階級とし、その境界値をそれぞれ第Ⅰ・第Ⅱ・第Ⅲ・第Ⅳ五分位値（五分位境界値）とするものです。五分位境界値は、厚生労働省「2021年国民生活基礎調査」に基づきました。

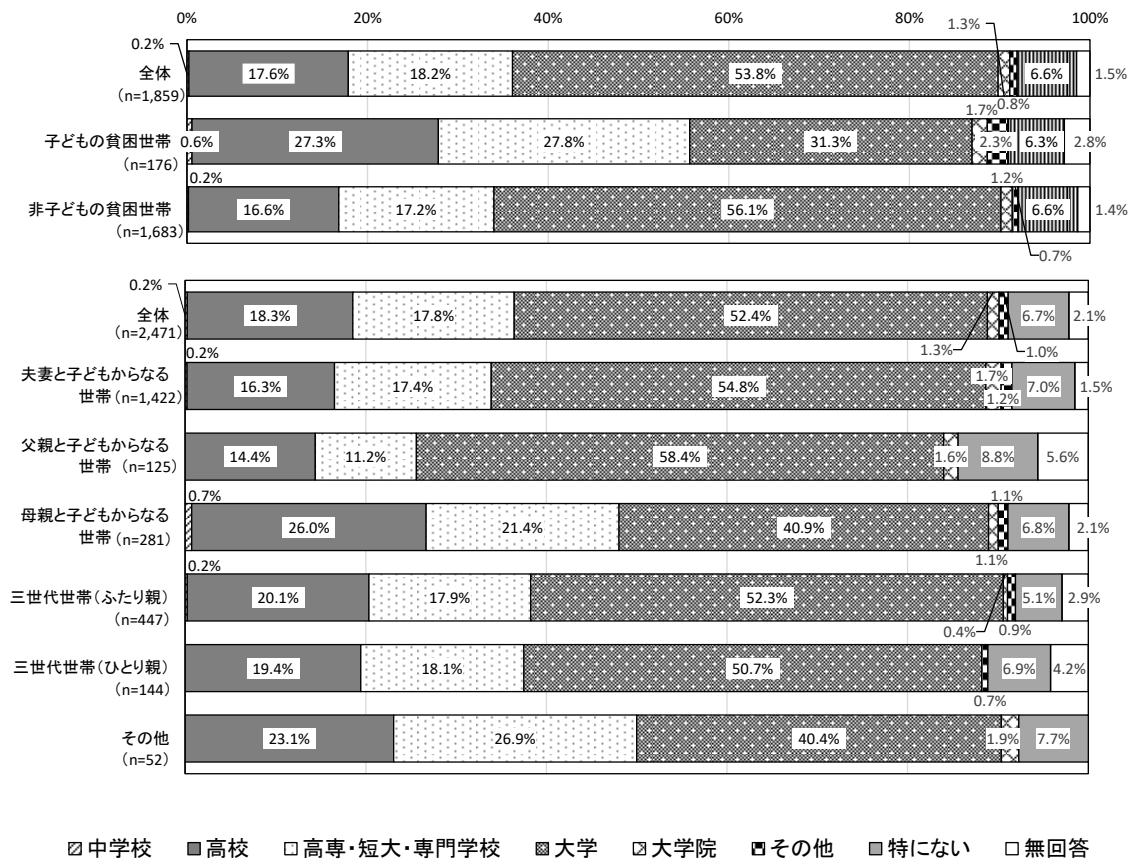
⑤子どもの学習環境等について

【親の子どもに対する進学先希望】



親の子どもに対する進学先希望については、「大学」(51.5%)が最も多く、次いで「高校」(18.2%)、「高専・短大・専門学校」(17.6%)の順となっています。

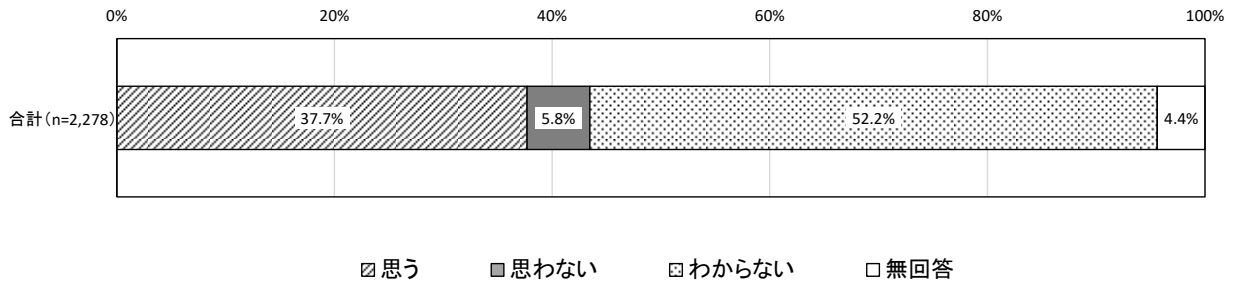
【親の子どもに対する進学先希望（子どもの貧困別、世帯構成別）】



【子どもの貧困別】でみると、「子どもの貧困世帯」は、「大学」(31.3%)が全体より少なくなっています。

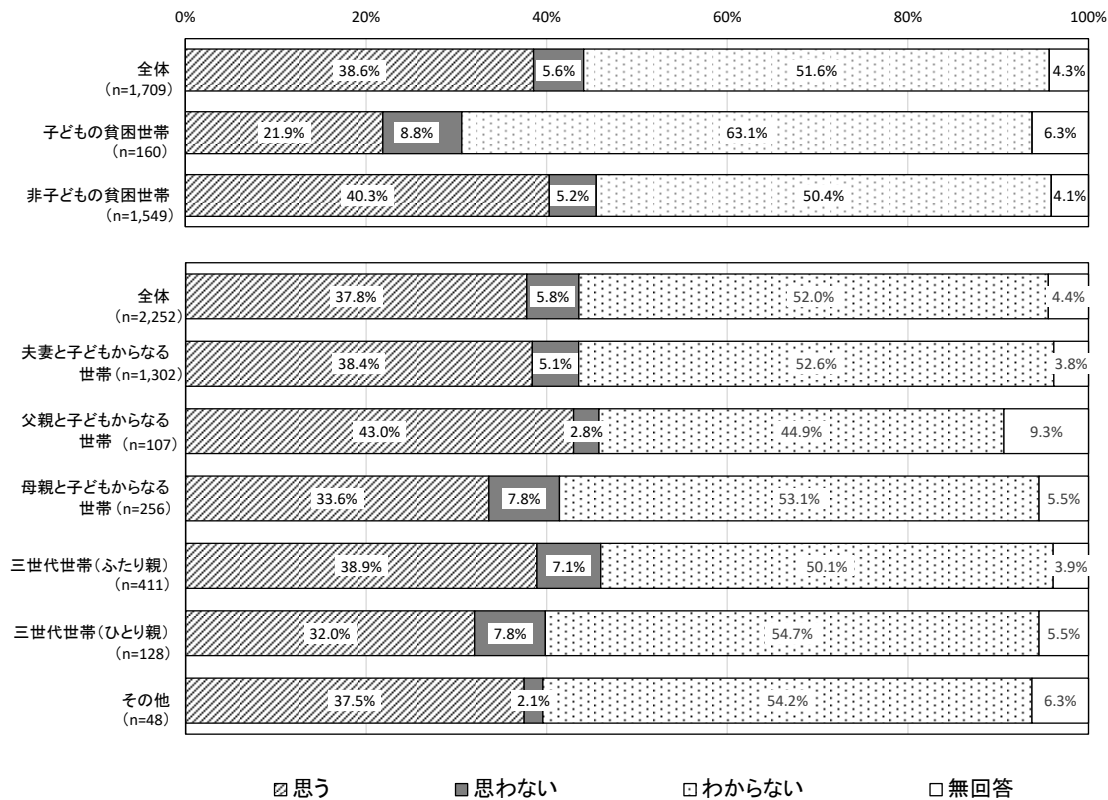
【世帯構成別】でみると、「母親と子どもからなる世帯」は、「大学」(40.9%)が全体より比較的少なくなっています。

【進学先の希望が叶うか】



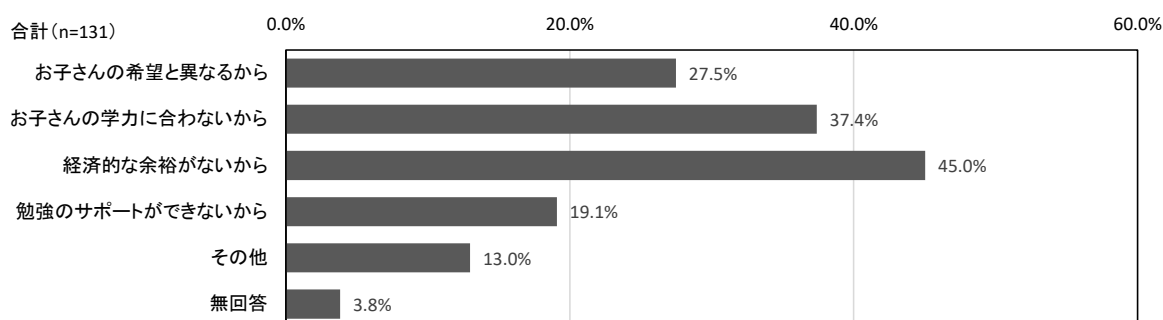
進学先希望が叶うかについては、「わからない」(52.2%)が最も多く、次いで「思う」(37.7%)となっています。

【進学先の希望が叶うか (子どもの貧困別、世帯構成別)】



【子どもの貧困別】でみると、“子どもの貧困世帯”は、「思う」(21.9%)が全体より少なくなっています。
【世帯構成別】でみると、全体より大きく違いのある項目はありませんでした。

【進学先の希望が叶わない理由】



進学先希望が叶わない理由については、「経済的な余裕がないから」（45.0%）が最も多く、次いで「お父さんの学力に合わないから」（37.4%）、「お父さんの希望と異なるから」（27.5%）、「勉強のサポートができないから」（19.1%）の順となっています。

【進学先の希望が叶わない理由（子どもの貧困別、世帯構成別）】

	調査数	お父さんの希望と異なるから	お父さんの学力に合わないから	経済的な余裕がないから	勉強のサポートができないから	その他	無回答
全体	95	30.5%	38.9%	42.1%	14.7%	14.7%	2.1%
子どもの貧困世帯	14	14.3%	42.9%	64.3%	21.4%	21.4%	0.0%
非子どもの貧困世帯	81	33.3%	38.3%	38.3%	13.6%	13.6%	2.5%

【子どもの貧困別】でみると、「子どもの貧困世帯」は、「経済的な余裕がないから」（64.3%）が全体より多くなっており、「お父さんの希望と異なるから」（14.3%）が全体より少なくなっています。

	調査数	お父さんの希望と異なるから	お父さんの学力に合わないから	経済的な余裕がないから	勉強のサポートができないから	その他	無回答
全体	130	26.9%	37.7%	45.4%	19.2%	13.1%	3.8%
夫妻と子どもからなる世帯	67	38.8%	43.3%	40.3%	14.9%	9.0%	3.0%
父親と子どもからなる世帯	3	33.3%	100.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
母親と子どもからなる世帯	20	5.0%	30.0%	70.0%	40.0%	20.0%	0.0%
三世帯世帯（ふたり親）	29	24.1%	24.1%	31.0%	17.2%	24.1%	6.9%
三世帯世帯（ひとり親）	10	0.0%	40.0%	70.0%	10.0%	0.0%	10.0%
その他	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

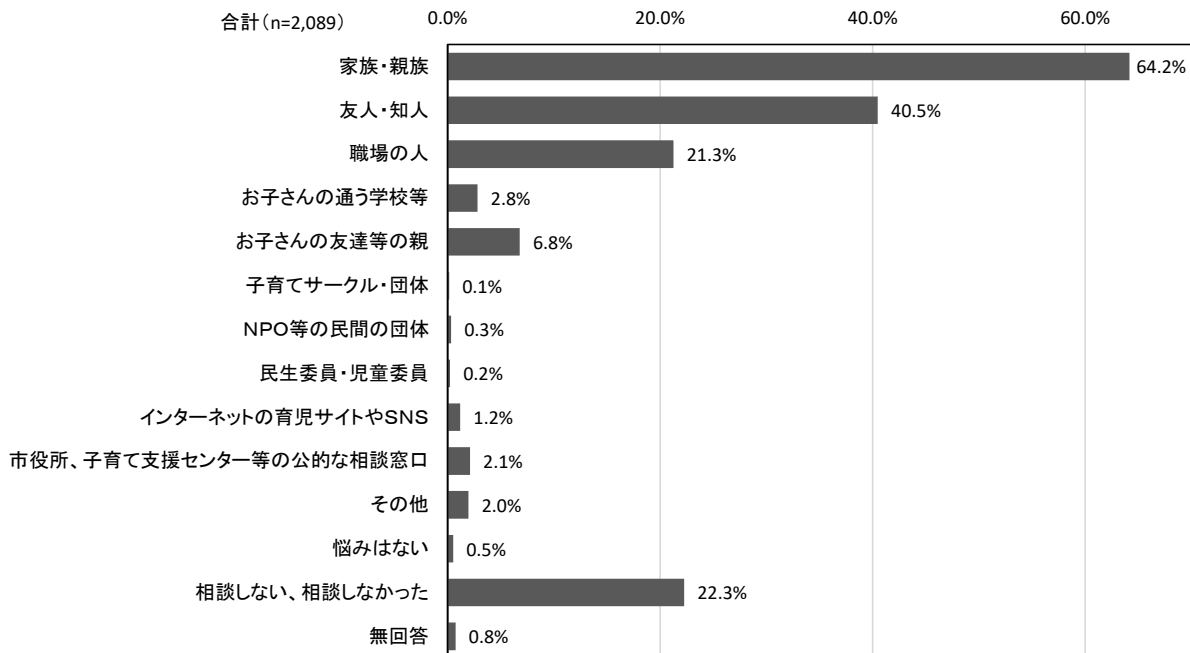
【世帯構成別】でみると、「夫妻と子どもからなる世帯」は、「お父さんの希望と異なるから」（38.8%）が全体より多くなっています。「母親と子どもからなる世帯」は、「経済的な余裕がないから」（70.0%）、「勉強のサポートができないから」（40.0%）が全体より多くなっており、「お父さんの希望と異なるから」（5.0%）が全体より少なくなっています。

	調査数	生活費	子どもの 養育費	仕事	住宅	健康
全体	2,471	42.8%	49.0%	30.2%	14.2%	32.9%
夫妻と子どもからなる世帯	1,422	39.0%	46.6%	28.0%	12.7%	33.3%
父親と子どもからなる世帯	125	44.8%	42.4%	32.0%	15.2%	30.4%
母親と子どもからなる世帯	281	57.7%	57.3%	39.5%	22.1%	32.7%
三世帯世帯(ふたり親)	447	40.0%	49.4%	28.6%	13.0%	32.4%
三世帯世帯(ひとり親)	144	52.1%	59.7%	34.7%	13.9%	29.9%
その他	52	57.7%	51.9%	38.5%	21.2%	40.4%

	対人関係	自身の老後	家族	その他	特にない	無回答
全体	11.4%	36.5%	26.0%	4.3%	15.3%	1.5%
夫妻と子どもからなる世帯	10.5%	35.9%	25.2%	4.6%	16.5%	1.5%
父親と子どもからなる世帯	11.2%	35.2%	20.0%	8.0%	15.2%	0.8%
母親と子どもからなる世帯	15.7%	43.4%	26.0%	3.2%	10.0%	1.1%
三世帯世帯(ふたり親)	11.6%	31.5%	32.0%	3.8%	16.6%	2.2%
三世帯世帯(ひとり親)	10.4%	43.8%	22.2%	2.1%	9.7%	2.1%
その他	11.5%	44.2%	21.2%	1.9%	17.3%	0.0%

【世帯構成別】でみると、「母親と子どもからなる世帯」は、「生活費」(57.7%)が全体より多くなっています。「三世帯世帯(ひとり親)」は、「子どもの養育費」(59.7%)が全体より多くなっています。

【生活の悩みの相談相手】



生活の悩みを相談する相手については、「家族・親族」(64.2%)が最も多く、次いで「友人・知人」(40.5%)、「相談しない、相談しなかった」(22.3%)、「職場の人」(21.3%)の順となっています。

【生活の悩みの相談相手（子どもの貧困別、世帯構成別）】

	調査数	家族・親族	友人・知人	職場の人	お子さんの通う学校等
全体	1,578	65.0%	42.2%	21.7%	2.9%
子どもの貧困世帯	170	52.9%	43.5%	16.5%	1.8%
非子どもの貧困世帯	1,408	66.4%	42.0%	22.3%	3.1%

	お子さんの友達等の親	子育てサークル・団体	NPO等の民間の団体	民生委員・児童委員	インターネットの育児サイトやSNS*
全体	6.8%	0.2%	0.3%	0.1%	1.2%
子どもの貧困世帯	4.1%	0.0%	1.2%	0.6%	0.6%
非子どもの貧困世帯	7.1%	0.2%	0.1%	0.1%	1.3%

	市役所、子育て支援センター等の公的な相談窓口	その他	悩みはない	相談しない、相談しなかった	無回答
全体	1.8%	2.1%	0.6%	21.8%	0.3%
子どもの貧困世帯	2.9%	2.4%	0.0%	29.4%	0.0%
非子どもの貧困世帯	1.6%	2.1%	0.7%	20.9%	0.4%

【子どもの貧困別】で見ると、“子どもの貧困世帯”は、「家族・親族」(52.9%)が全体より少なくなっています。



*SNS：ソーシャルネットワーキングサービス（Social Networking Service）の略で、登録された利用者同士が交流できるWebサイトのサービスのこと。

	調査数	家族・親族	友人・知人	職場の人	お子さんの通う学校等
全体	2,060	64.2%	40.4%	21.3%	2.9%
夫妻と子どもからなる世帯	1,170	68.8%	39.1%	21.6%	3.2%
父親と子どもからなる世帯	105	56.2%	36.2%	19.0%	1.9%
母親と子どもからなる世帯	250	48.0%	40.0%	19.2%	3.6%
三世代世帯(ふたり親)	365	68.5%	45.8%	22.5%	1.9%
三世代世帯(ひとり親)	127	52.8%	41.7%	24.4%	2.4%
その他	43	51.2%	37.2%	9.3%	0.0%

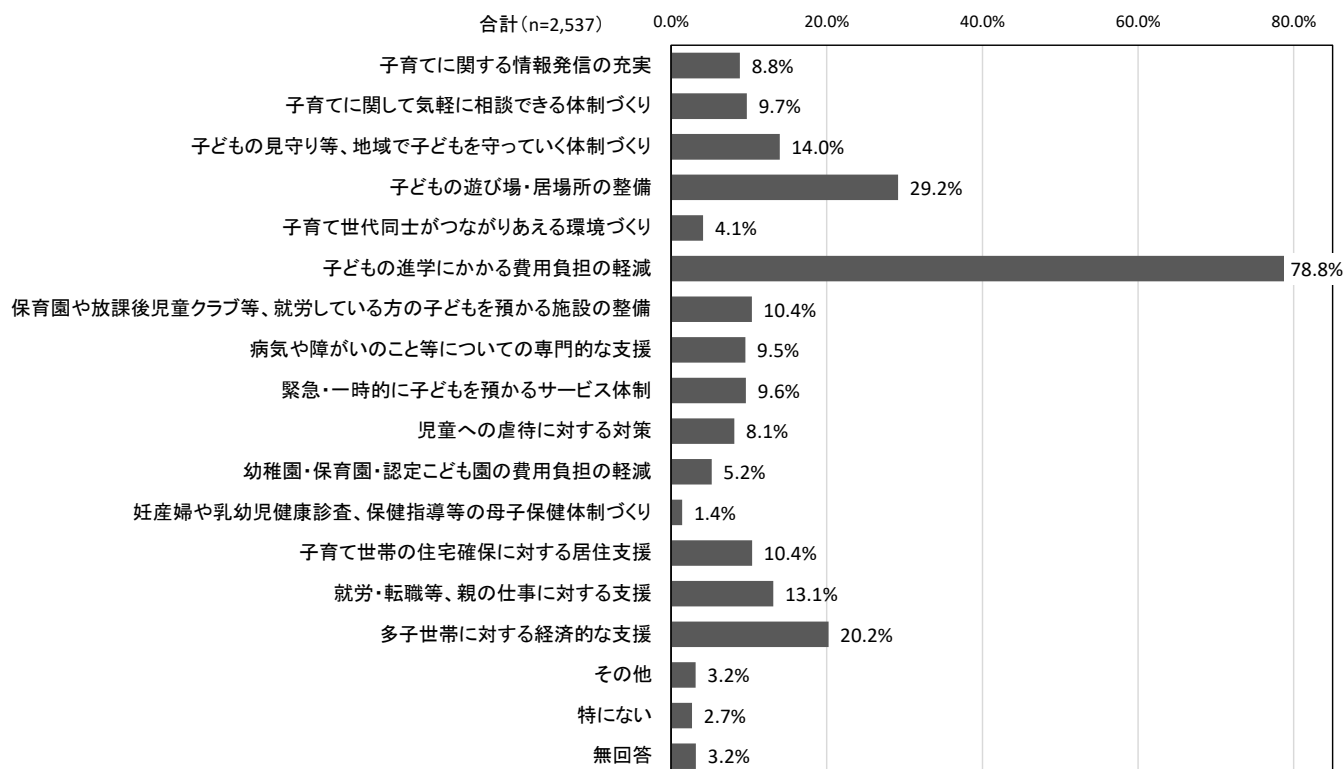
	お子さんの友達等の親	子育てサークル・団体	NPO等の民間の団体	民生委員・児童委員	インターネットの育児サイトやSNS
全体	6.9%	0.1%	0.3%	0.2%	1.2%
夫妻と子どもからなる世帯	7.2%	0.3%	0.4%	0.2%	1.1%
父親と子どもからなる世帯	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%
母親と子どもからなる世帯	6.0%	0.0%	0.8%	1.2%	0.0%
三世代世帯(ふたり親)	9.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%
三世代世帯(ひとり親)	3.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%
その他	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%

	市役所、子育て支援センター等の公的な相談窓口	その他	悩みはない	相談しない、相談しなかった	無回答
全体	2.1%	2.0%	0.5%	22.3%	0.8%
夫妻と子どもからなる世帯	1.8%	1.7%	0.6%	20.0%	0.5%
父親と子どもからなる世帯	2.9%	1.9%	0.0%	25.7%	1.9%
母親と子どもからなる世帯	4.0%	3.2%	0.4%	32.8%	0.8%
三世代世帯(ふたり親)	1.1%	1.9%	0.3%	18.1%	1.4%
三世代世帯(ひとり親)	1.6%	3.1%	1.6%	26.8%	0.8%
その他	9.3%	0.0%	0.0%	39.5%	0.0%

【世帯構成別】でみると、“母親と子どもからなる世帯”は、「相談しない、相談しなかった」(32.8%)が全体より多くなっており、「家族・親族」(48.0%)が全体より少なくなっています。“三世代世帯(ひとり親)”は、「家族・親族」(52.8%)が全体より少なくなっています。

⑦保護者の子育て環境について

【重要な子育て支援】



重要な子育て支援については、「子どもの進学にかかる費用負担の軽減」(78.8%)が最も多く、次いで「子どもの遊び場・居場所の整備」(29.2%)、「多子世帯に対する経済的な支援」(20.2%)の順となっています。



【重要な子育て支援（子どもの貧困別、世帯構成別）】

	調査数	子育てに関する情報発信の充実	子育てに関して気軽に相談できる体制づくり	子どもの見守り等、地域で子どもを守っていく体制づくり	子どもの遊び場・居場所の整備	子育て世代同士がつながりあえる環境づくり
全体	1,859	9.0%	10.5%	14.6%	30.2%	4.2%
子どもの貧困世帯	176	5.1%	10.8%	10.2%	24.4%	3.4%
非子どもの貧困世帯	1,683	9.4%	10.5%	15.0%	30.8%	4.3%

	子どもの進学にかかる費用負担の軽減	保育園や放課後児童クラブ等、就労している方の子どもを預かる施設の整備	病気や障がいのこと等についての専門的な支援	緊急・一時的に子どもを預かるサービス体制	児童への虐待に対する対策	幼稚園・保育園・認定こども園の費用負担の軽減
全体	80.9%	11.4%	10.3%	10.4%	8.5%	5.5%
子どもの貧困世帯	83.0%	9.7%	9.7%	10.2%	9.1%	9.7%
非子どもの貧困世帯	80.7%	11.6%	10.4%	10.4%	8.4%	5.1%

	妊産婦や乳幼児健康診査、保健指導等の母子保健体制づくり	子育て世帯の住宅確保に対する居住支援	就労・転職等、親の仕事に対する支援	多子世帯に対する経済的な支援	その他	特になし
全体	1.4%	10.5%	14.1%	21.1%	3.6%	2.7%
子どもの貧困世帯	1.7%	26.7%	26.1%	29.0%	5.7%	0.6%
非子どもの貧困世帯	1.4%	8.9%	12.8%	20.3%	3.3%	3.0%

	無回答
全体	0.6%
子どもの貧困世帯	1.1%
非子どもの貧困世帯	0.6%

【子どもの貧困別】でみると、「子どもの貧困世帯」は、「子育て世帯の住宅確保に対する居住支援」（26.7%）、「就労・転職等、親の仕事に対する支援」（26.1%）が全体より多くなっています。

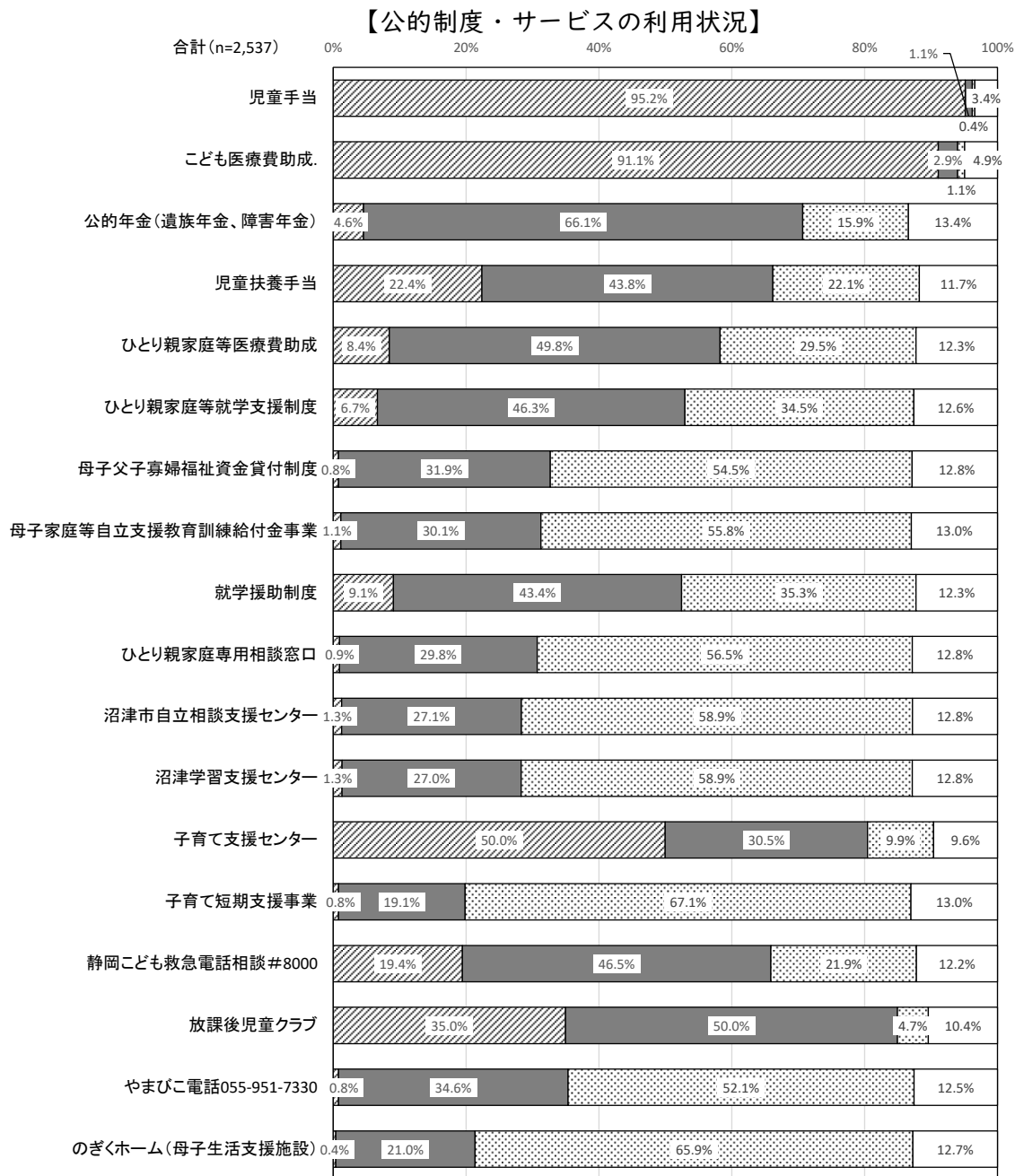
	調査数	子育てに関する情報発信の充実	子育てに関して気軽に相談できる体制づくり	子どもの見守り等、地域で子どもを守っていく体制づくり	子どもの遊び場・居場所の整備	子育て世代同士がつながりあえる環境づくり
全体	2,471	9.0%	9.8%	14.1%	29.5%	4.1%
夫妻と子どもからなる世帯	1,422	8.9%	10.1%	14.4%	31.1%	3.8%
父親と子どもからなる世帯	125	12.0%	12.0%	11.2%	28.8%	8.0%
母親と子どもからなる世帯	281	6.0%	12.5%	12.8%	23.8%	4.6%
三世帯世帯(ふたり親)	447	10.1%	8.5%	15.2%	31.5%	3.8%
三世帯世帯(ひとり親)	144	12.5%	3.5%	13.9%	21.5%	4.2%
その他	52	3.8%	11.5%	9.6%	21.2%	3.8%

	子どもの進学にかかる費用負担の軽減	保育園や放課後児童クラブ等、就労している方の子どもを預かる施設の整備	病気や障がいのこと等についての専門的な支援	緊急・一時的に子どもを預かるサービス体制	児童への虐待に対する対策	幼稚園・保育園・認定こども園の費用負担の軽減
全体	79.9%	10.4%	9.7%	9.7%	8.2%	5.3%
夫妻と子どもからなる世帯	81.4%	10.8%	9.4%	9.9%	9.1%	5.3%
父親と子どもからなる世帯	76.0%	12.0%	12.8%	11.2%	11.2%	6.4%
母親と子どもからなる世帯	74.4%	8.5%	11.4%	10.7%	5.3%	4.6%
三世帯世帯(ふたり親)	79.6%	10.1%	8.9%	8.7%	6.0%	6.5%
三世帯世帯(ひとり親)	82.6%	10.4%	9.0%	9.0%	8.3%	3.5%
その他	75.0%	9.6%	9.6%	3.8%	11.5%	1.9%

	妊産婦や乳幼児健康診査、保健指導等の母子保健体制づくり	子育て世帯の住宅確保に対する居住支援	就労・転職等、親の仕事に対する支援	多子世帯に対する経済的な支援	その他	特にな	無回答
全体	1.5%	10.4%	13.3%	20.5%	3.2%	2.7%	1.9%
夫妻と子どもからなる世帯	1.5%	9.3%	11.3%	20.9%	3.4%	2.7%	1.5%
父親と子どもからなる世帯	0.8%	7.2%	9.6%	20.8%	2.4%	1.6%	2.4%
母親と子どもからなる世帯	1.1%	23.8%	19.9%	21.0%	2.5%	3.9%	2.5%
三世帯世帯(ふたり親)	2.0%	5.4%	14.1%	20.8%	2.9%	1.8%	2.7%
三世帯世帯(ひとり親)	0.0%	11.1%	16.7%	18.1%	2.8%	3.5%	1.4%
その他	1.9%	17.3%	25.0%	9.6%	7.7%	1.9%	1.9%

【世帯構成別】でみると、“母親と子どもからなる世帯”は、「子育て世帯の住宅確保に対する居住支援」(23.8%)が全体より多くなっています。

⑧沼津市の公的制度・サービスの利用状況



▨ 利用している・利用したことがある ■ 利用したことはないが、知っている ▨ 制度を知らない □ 無回答

「利用している・利用したことがある」が多い公的制度・サービス等は、「児童手当」、「こども医療費助成」、「子育て支援センター」です。

「利用したことはないが、知っている」が多い公的制度・サービス等は、「公的年金」、「放課後児童クラブ」です。

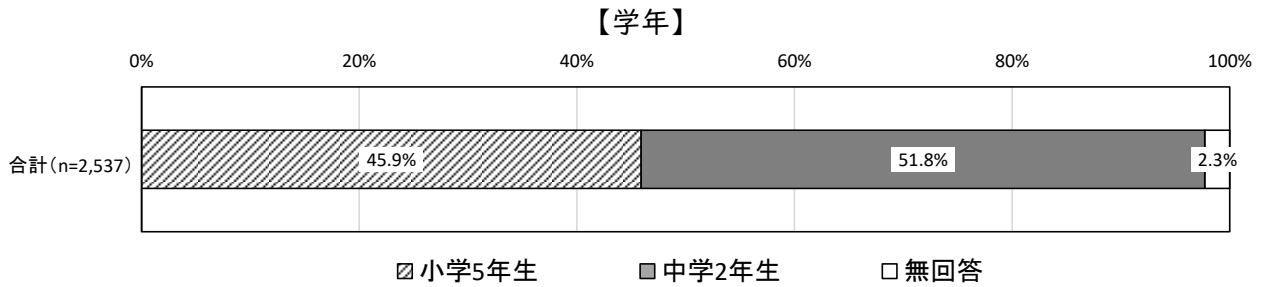
「制度を知らない」が多い公的制度・サービス等は、「母子父子寡婦福祉資金貸付制度」、「母子家庭等自立支援教育訓練給付金事業」、「ひとり親家庭専用相談窓口」、「沼津市自立相談支援センター」、「沼津学習支援センター」、「子育て短期支援事業」、「やまびこ電話」、「のぎくホーム」です。

⑨自由意見（子育て支援策等に対する意見等）（一部抜粋）

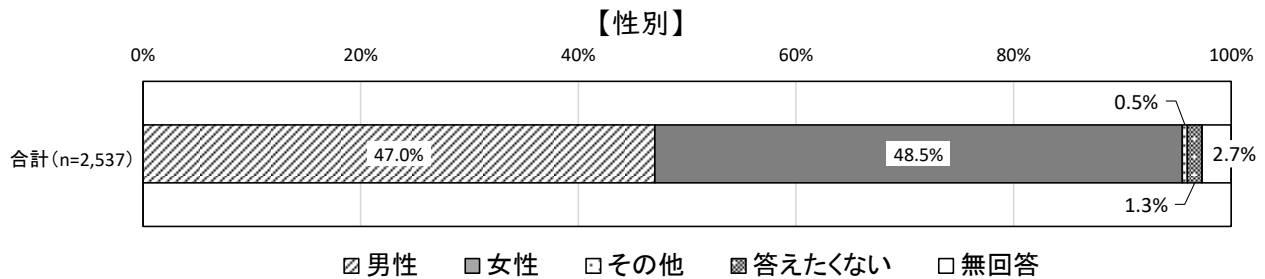
- 個々で子どもを育てるのではなく、地域で見えていく体制があるといいと思います。お年寄りと、子どもたちが一緒に過ごせる施設を。安全に遊べる場所も。週末のワークショップ体験型をたくさんしてほしいです（沼津の自然を生かし、無料ではなく1,000円ぐらいの有料でも）。
- 所得制限世帯への対応は改善してほしい。今後、大学・高校で姉妹2人分の学費フル負担は大変だなと思います。一番かかる時期に何も補助がないときついなと思います。
- 放課後児童クラブの長期休暇のときだけ預かりがあったら検討したいと思います。それとは別に、いつも子育てを支援していただいて昔よりもはるかに優遇されていることを実感しております。市にはさまざまな制度やフォロー体制で守っていただき、本当に感謝しております。
- 近年、新型コロナウイルス感染症や世界情勢により日本の経済が低迷し、私たち一般家庭にも物価上昇等によって生活にも影響が出ている。そのような中でも、せめて子どもたちにはどのような家庭でも経済的な理由から進学を断念することがないよう、国や各自治体に支援していただきたい。学力は本人による努力次第でなんとかなっても、経済力は本人の力ではどうにもならないので、そこをすべての子どもが平等になる手助けをしていただきたい。
- 共働き世帯です。夫婦で働く理由は経済的な理由です。子ども3人おります。教育費がとにかく必要なので頑張っていますが不安です。中・高・大と子どもが進むべき道を経済的な理由で潰したくありません。しかし、現在の支援制度では収入のある家庭が損をしているように感じます。また、どのような制度があるかもっと具体的にわかりやすく周知してほしいと思います。
- 塾に通わせないと学習が身につかない。塾に通っているのがあたり前になってしまうと、多子家庭の負担はますます増える。学校が学習面の定着をもう少しフォローしてほしい。共働きしないと生活が成り立たないのに、「勉強は家庭で見てください」と言われても時間的にも精神的にも余裕がない。子どもを産めと言うが、産んで生活がこんなに苦しいとは・・・産まない人が増えるのも当然。
- 沼津市には子どもを遊ばせる大きな公園が少ないように感じる。駐車場があって、水遊びもできて、大きな広場もあって安心して子どもを遊ばせられる大型遊具がある公園がほしい。
- 現在、仕事の関係で朝早く家を出なければならない。お父さんも24時間勤務のため子どもたちに自分たちだけで朝起き、食事をし、戸締りをしてもらって登校してもらっている。下校時には出迎えるようにしているが、パートやアルバイトでも子どもたちの時間に合った職種があまりないと感じる。
- 物価も高いので、給食費免除はとてありがたいと思います。これからは大学まで行くのがあたり前のようになってきたら学費をもう少し援助していただけると助かります。

【調査結果（児童・生徒）】

①回答者の属性

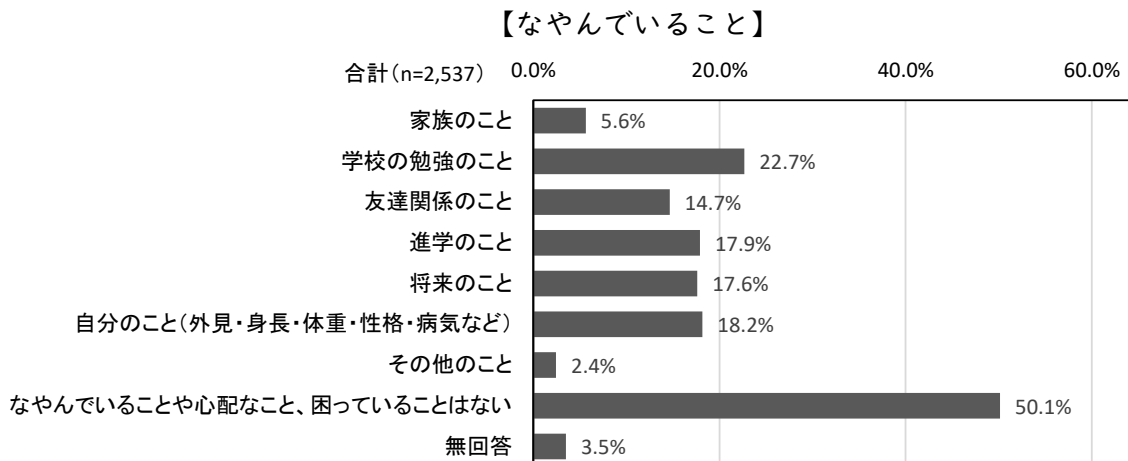


回答者の学年については、「小学5年生」が45.9%、「中学2年生」が51.8%となっています。



回答者の性別については、「男性」が47.0%、「女性」が48.5%となっています。

②回答者の生活環境について



なやんでいることについては、「なやんでいることや心配なこと、困っていることはない」(50.1%)が最も多く、次いで「学校の勉強のこと」(22.7%)、「自分のこと(外見・身長・体重・性格・病気など)」(18.2%)、「進学のこと」(17.9%)、「将来のこと」(17.6%)の順となっています。

【なやんでいること（子どもの貧困別）】

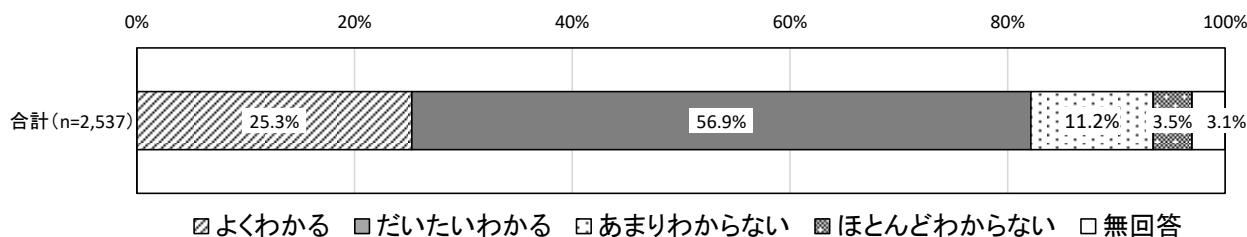
	調査数	家族のこと	学校の勉強のこと	友達関係のこと	進学のこと	将来のこと	自分のこと (外見・身長・体重・性格・病気など)
全体	1,859	5.8%	22.5%	15.0%	17.3%	17.3%	18.5%
子どもの貧困世帯	176	6.8%	26.1%	18.2%	17.0%	15.3%	20.5%
非子どもの貧困世帯	1,683	5.7%	22.2%	14.7%	17.3%	17.5%	18.3%

	その他のこと	なやんでいることや心配なこと、困っていることはない	無回答
全体	2.0%	51.2%	2.6%
子どもの貧困世帯	2.8%	50.6%	4.0%
非子どもの貧困世帯	2.0%	51.2%	2.4%

【子どもの貧困別】で見ると、全体より大きく違いのある項目はありませんでした。

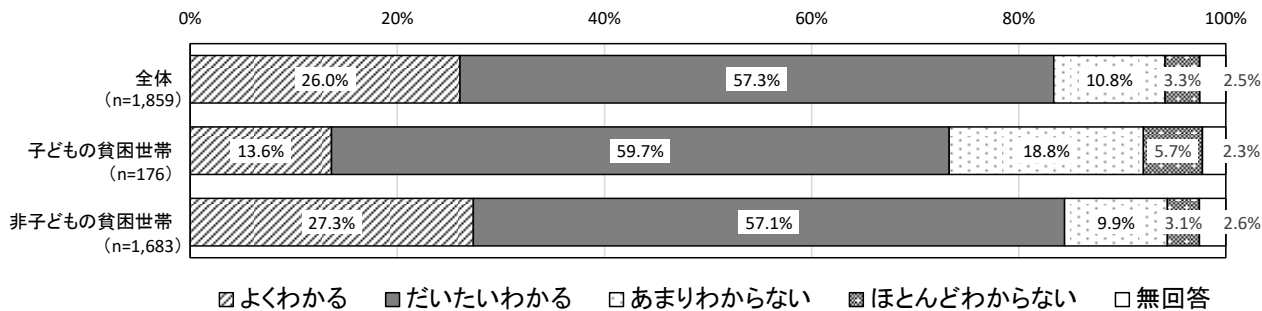
③勉強や将来のことについて

【授業の理解】



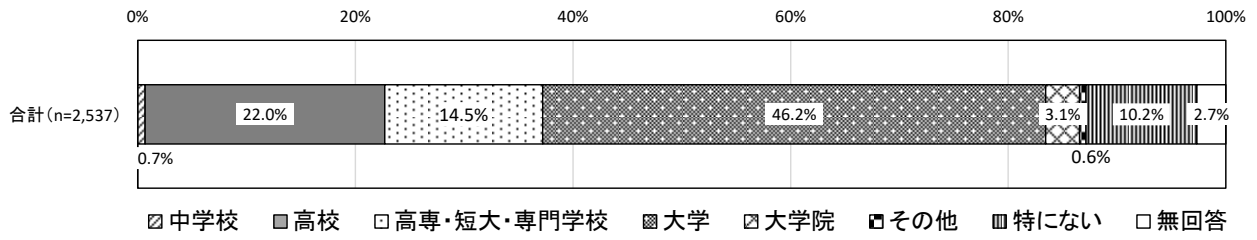
授業の理解については、「だいたいわかる」(56.9%)が最も多く、次いで「よくわかる」(25.3%)となっています。

【授業の理解（子どもの貧困別）】



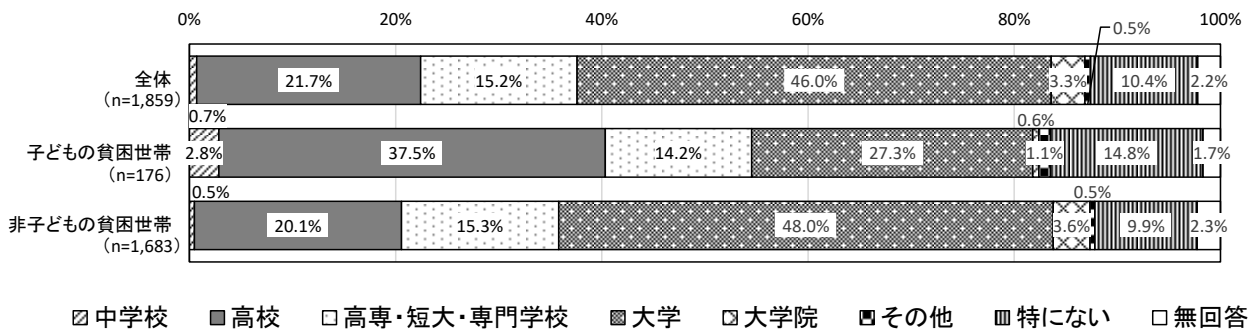
【子どもの貧困別】で見ると、“子どもの貧困世帯”は、「よくわかる」(13.6%)が全体より少なくなっています。

【進学などの希望】



進学などの希望については、「大学」(46.2%)が最も多く、次いで「高校」(22.0%)、「高専・短大・専門学校」(14.5%)の順となっています。

【進学などの希望 (子どもの貧困別)】

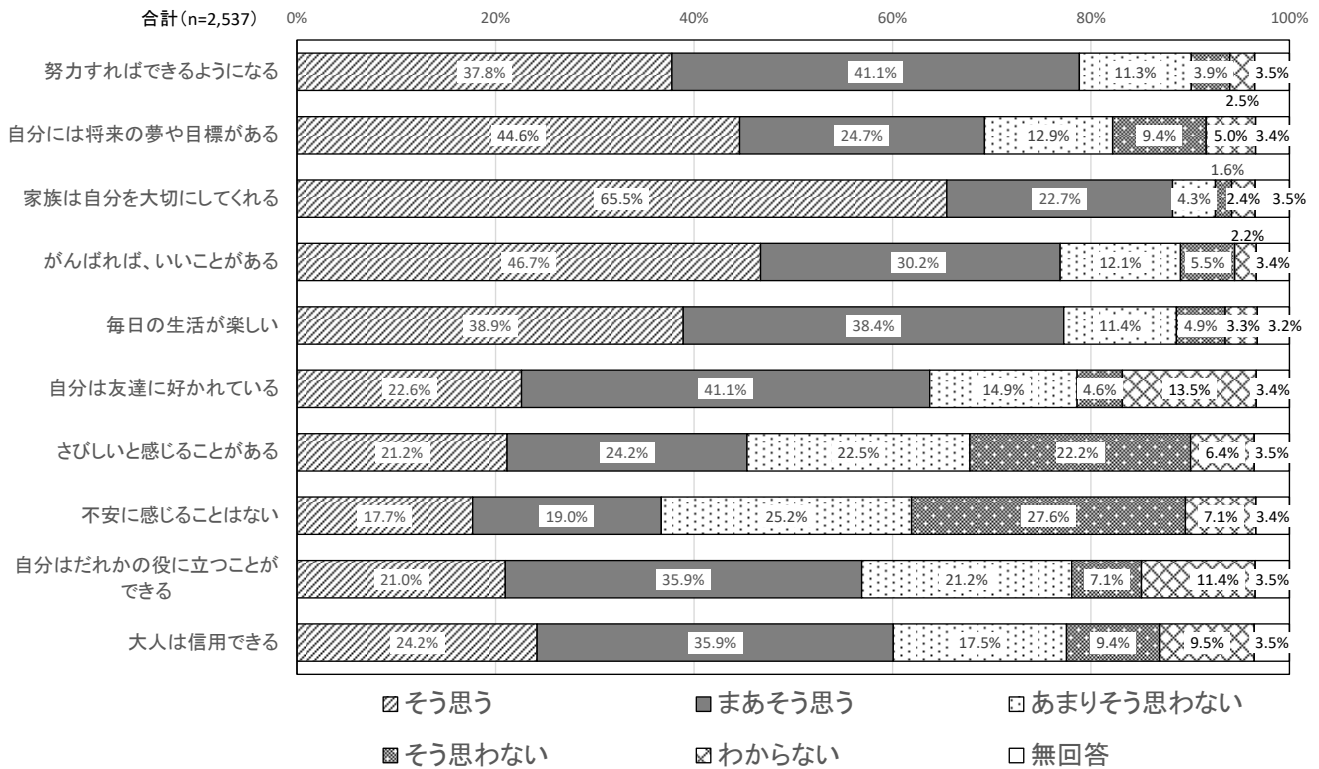


【子どもの貧困別】で見ると、“子どもの貧困世帯”は、「高校」(37.5%)が全体より多くなっており、「大学」(27.3%)が全体より少なくなっています。



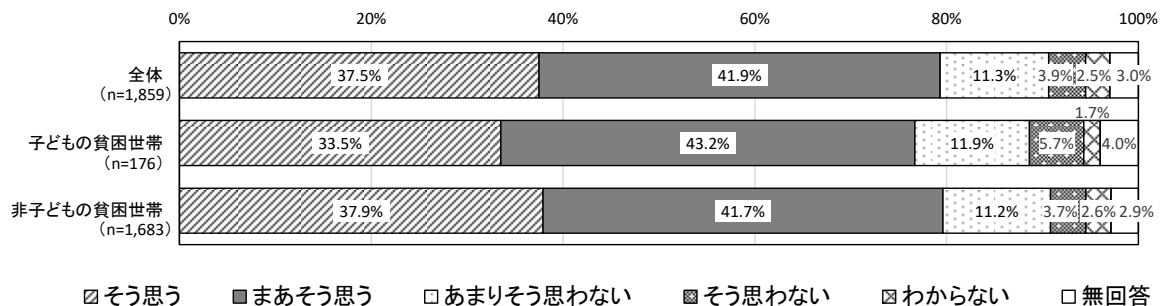
④日常生活の中で感じていることについて

【自己肯定感などについて】

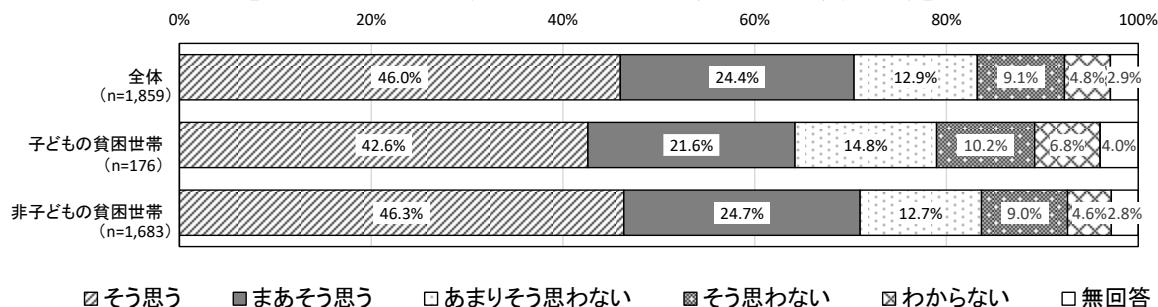


日常生活の中で感じていることについては、「そう思う」が最も多いものは「家族は自分を大切にしてくれる」(65.5%)、次いで“がんばれば、いいことがある”(46.7%)、“自分には将来の夢や目標がある”(44.6%)、“毎日の生活が楽しい”(38.9%)、“努力すればできるようになる”(37.8%)の順となっています。

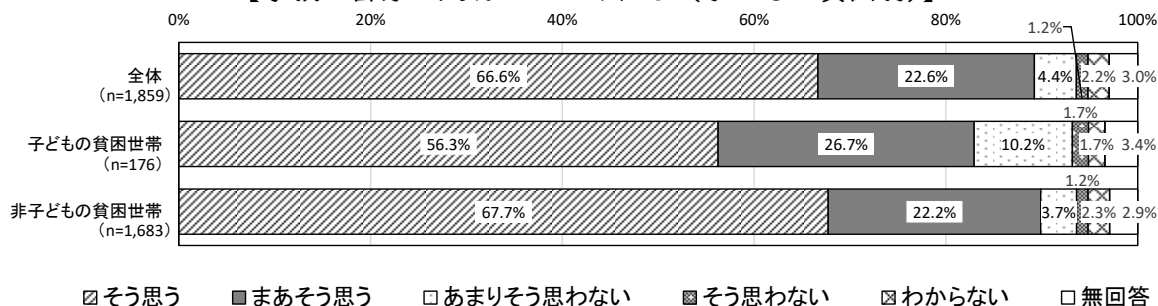
【努力すればできるようになる (子どもの貧困別)】



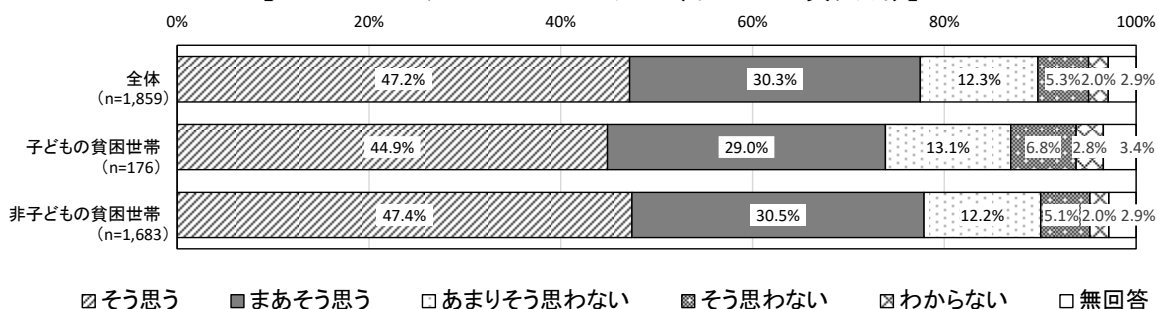
【自分には将来の夢や目標がある（子どもの貧困別）】



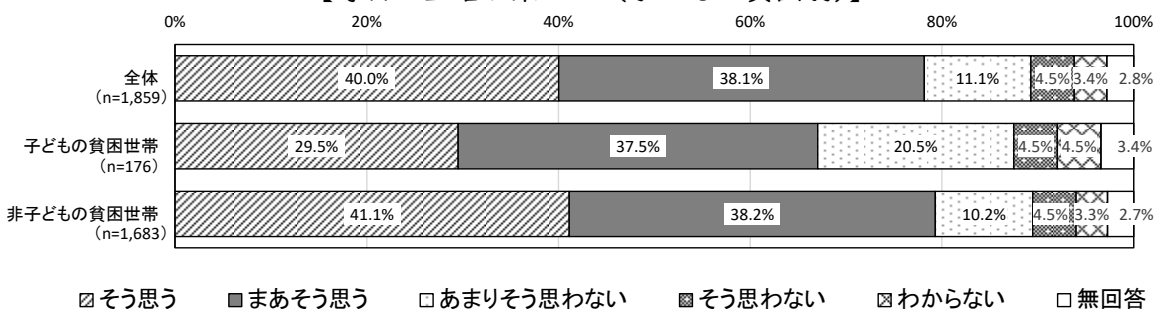
【家族は自分を大切にしてくれる（子どもの貧困別）】



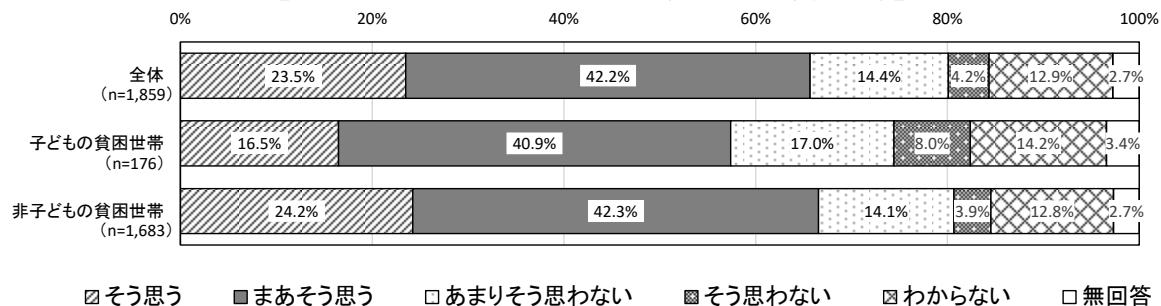
【がんばれば、いいことがある（子どもの貧困別）】



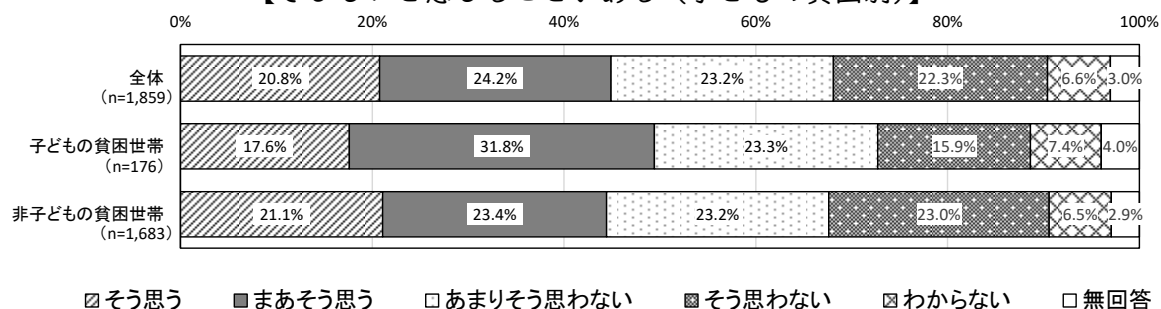
【毎日の生活が楽しい（子どもの貧困別）】



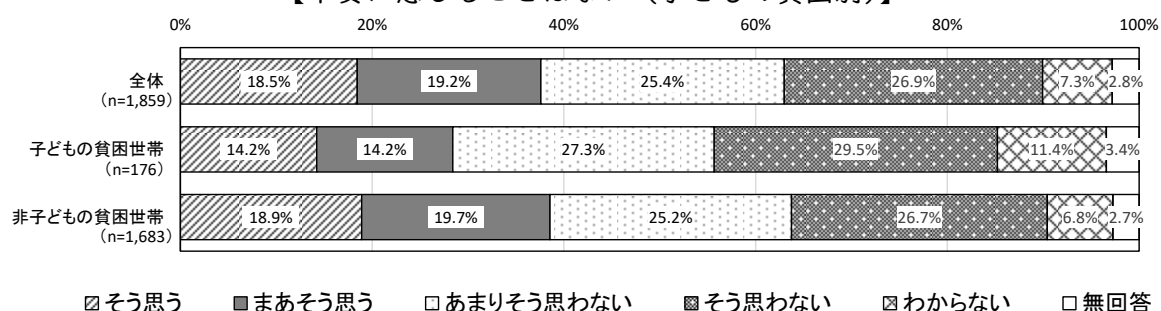
【自分は友達に好かれている（子どもの貧困別）】



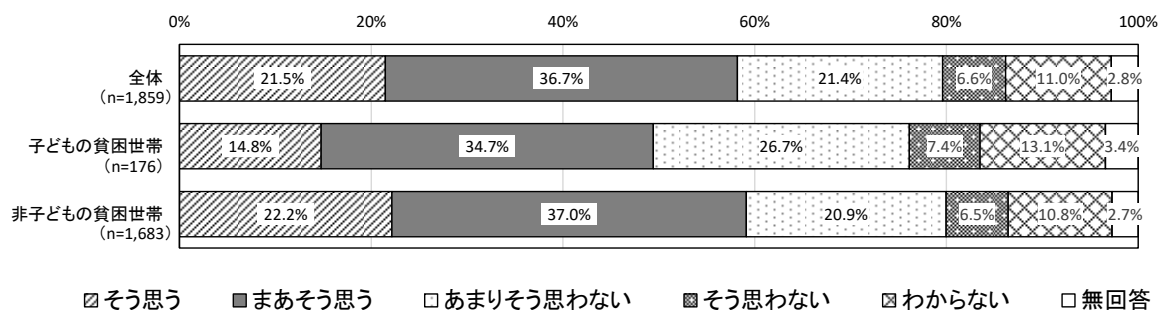
【さびしいと感じることがある（子どもの貧困別）】



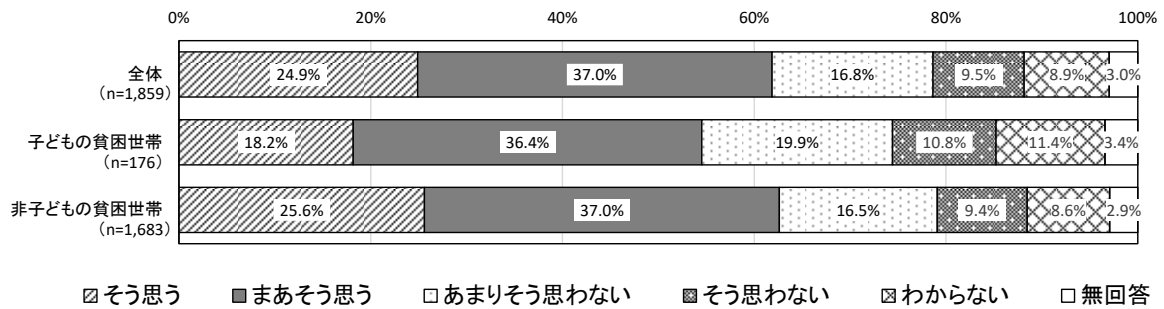
【不安を感じることはない（子どもの貧困別）】



【自分はだれかの役に立つことができる（子どもの貧困別）】



【大人は信用できる（子どもの貧困別）】



【子どもの貧困別】でみると、“子どもの貧困世帯”は、“家族は自分を大切にしてくれる”について「そう思う」(56.3%)が全体より比較的少なくなっています。また、“毎日の生活が楽しい”について「そう思う」(29.5%)が全体より比較的少なくなっています。全項目を通した傾向として“子どもの貧困世帯”は、肯定的な感覚が全体より少なくなっています。



⑤自由意見（学校や家での生活の中で思うこと）（一部抜粋）

- お母さんやお父さんがわたしのために楽しい生活をつくってくれて、毎日きれいな部屋でおいしい栄養満点のご飯を食べられて幸せです。時々、家族でお散歩をしたり、お父さんと釣りに行きます。勉強もわからないところを教えてくれたり、自主勉強のアイデアを出してくれます。学校も友達に会えて楽しく過ごせます。先生のわかりやすい授業でテストでいい点が取れます。
- わからない勉強を教えてくれる場所があったらいいなあ。長い休みのときにすごせる場所がほしい。
- 自分が友達にどう思われているのか心配で、「あまり都合良く話すぎてはいけない」としばられている感じがする。いろんな友達と遠くなっている気がする。家族以外に先生ぐらいしか、先生にもあまり相談できない。勇気がない。素直になれない。
- お母さんがいつも疲れて帰ってくるから、リラックスできるお店があればいいです。勉強がおいついているかが心配。
- 自分はこわがりて自分に自信がありません。でも、心の中ではみんないい心と悪い心がある。私のいい心の中はいつかみんなに頼られるやさしくて役に立つ人になりたい。悪い心の中は、自分でも嫌いな人はいるが、この人にだけいじわるするという人は大嫌いです。その人に対して悪口をうかべてしまうときがある。私はいい心で幸せに生活したい。
- いつもお母さんが一人で家のことをしているのもっと助けてあげたい。サッカーでトップチームのスタメンに入りたい。自分のやりたいことがあるとすぐにほかの案のほうがいいのにわがままになって自分勝手になってしまうところを悩んでいる。
- 放課後の1時間でも勉強を見ていただける機会があったらありがたいです。塾や家庭教師に行くのがあたり前のような風潮がありますが、送迎や夜遅くなり、睡眠時間を考えると学校の授業がわからなくても通わせることに疑問を感じているため。
- コロナで給食などもみんなと話して食べることができないし、マスクも必ずしなきゃいけないから、コロナが終わったらもっといろいろな行事をしたいし、自由に友達と遊びたいなど思った。
- もっと先生全員が一人ひとりを気にかけてしっかり相談してほしい。自分から声をかけ、仲良くしようとしているが、相手と合わせられる性格ではないから友達との関わりが少し大変。
- 言葉の意味を調べるとき、ネットや電子辞書を使いたい。授業や宿題で計算をするとき外国の学校のように電卓を使えるようにしてほしいです。教科書はすべてデジタル化してほしいです。

(2) 資源量把握調査

【調査の目的】

日頃から、子どもたちや子どものいる家庭への支援に関わっている方へ調査を行い、貧困の状態に置かれた子どもが、どんな困難を抱えているのか、どういう経験をしているのか、現場の声を調査しました。

【調査の概要】

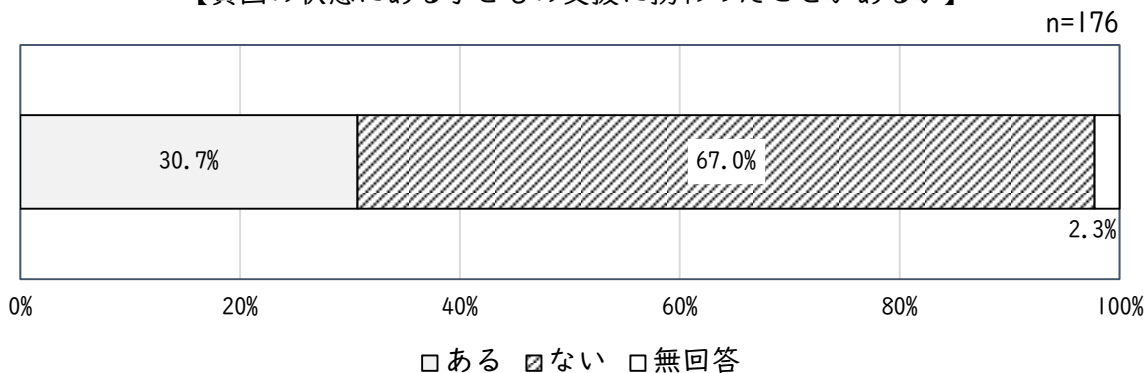
- ・調査対象：各学校、放課後児童クラブ等、関係団体の職員、民生委員・児童委員及び主任児童委員
- ・調査時期：令和4年7月～9月
- ・調査方法：各団体に応じて郵送や会議等で調査・回収
- ・回収状況

	配布数	有効回収数	有効回収率
団体用	215	176	81.9%
民生委員・児童委員、主任児童委員用	372	332	89.2%

【調査結果（団体用）】

①貧困への支援について

【貧困の状態にある子どもの支援に携わったことがあるか】



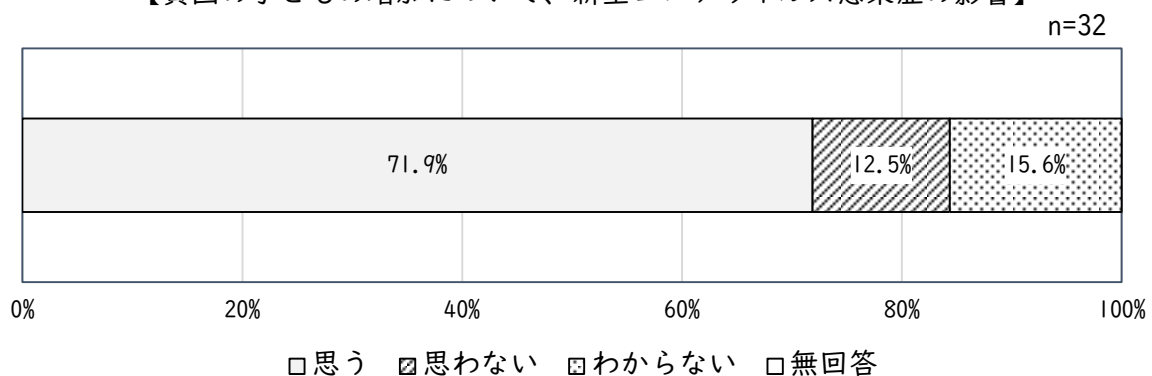
「ある」の割合が30.7%、「ない」の割合が67.0%となっています。

②貧困の状態にある子どもの支援の内容（貧困の状態にある子どもを支援したことがある方）
（一部抜粋）

- 保護者と連絡を密にとり、子どもの現状の把握を心がけました。学用品を貸し出したり、行事や持ち物等のお知らせを事前に保護者に伝えたりして、子どもが困る場面が減るよう努めました。
- ケース会議を実施し、状況把握に努めた。ケース会議には、学校だけでなく関係団体とも連携を図りました。
- 保護者と連絡を多くとるようにしたり、園児との会話から家庭での困り感を探ったりしながら、家庭生活の見守りをした。また、園児が欠席した場合等、クラスの友達が不信感を抱くことのないように、欠席の理由を伝えたり、休み明けの言動に配慮したりしました。
- 家で食事を充分にとれていないのではないかと考え、給食をしっかりと食べられるよう配慮した。また、服の汚れや入浴などについて子どもの様子を見ながら家庭に連絡する等した。
- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーへのつなぎ、助成制度の紹介、丁寧な児童観察、保護者との連携。
- 必ず家に寄り、様子を把握、時々保護者と話す。夜、電話等で確認（夕食を食べたか等）。
- 保護者に準要保護の申請を伝え、市役所の関係機関にも連絡をとりました。
- 民生委員として不登校の児童を学校まで朝送っていくとき、歩きながら話してくれた内容からその子の家族の生活を垣間見ることがあった。
- 不衛生な生活環境のため、園で衣類や布団等の洗濯をすることがある。こども家庭課・東部児童相談所と連携を取り、情報交換をし、対応の相談をしている。

③貧困の子どもが増えている原因として新型コロナウイルス感染症は影響していると思うか

【貧困の子どもの増加について、新型コロナウイルス感染症の影響】



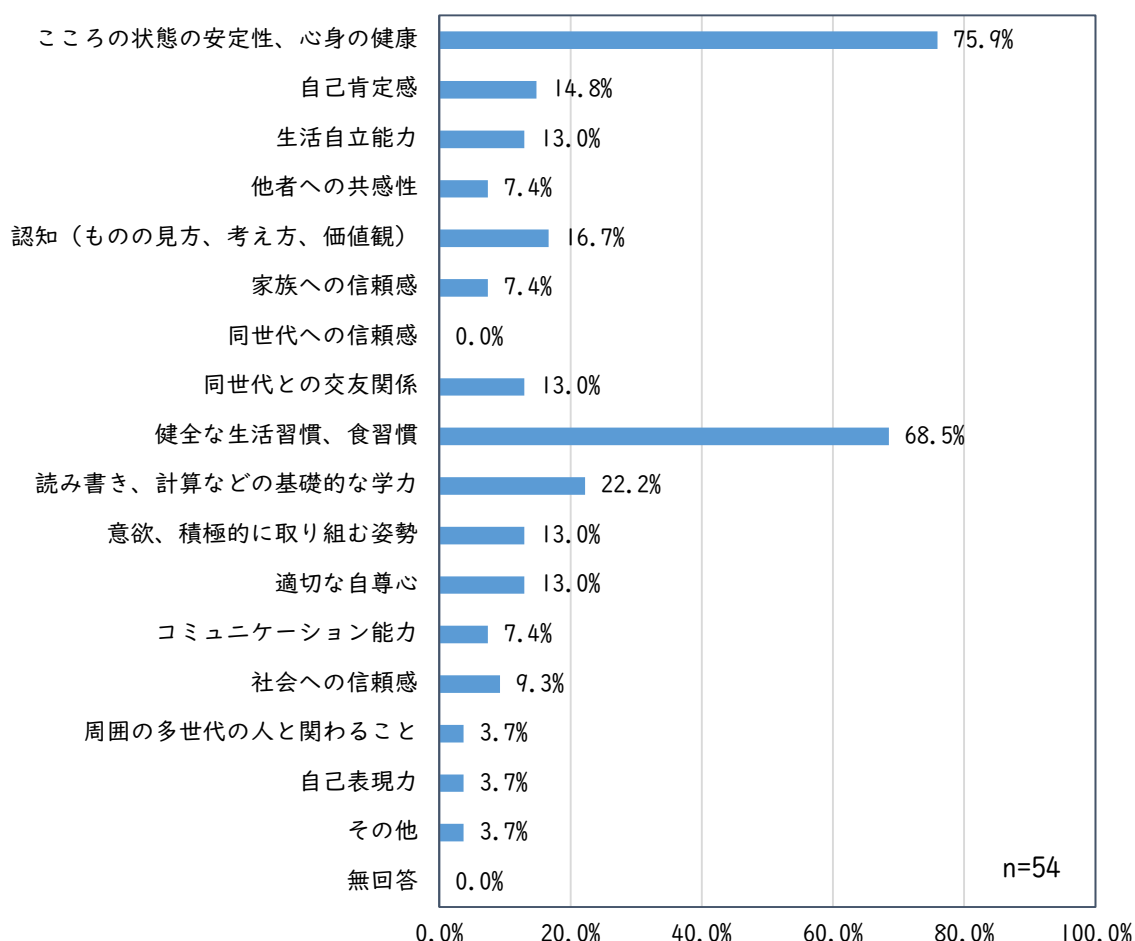
貧困の子どもが増えていると回答した団体によると、「思う」の割合が71.9%と最も高く、次いで「わからない」が15.6%、「思わない」が12.5%と続いています。

④新型コロナウイルス感染症の流行が子どもの貧困に与えた影響（一部抜粋）

- 飲食業などの経営難などにより、それに関わる保護者の収入の減少があり、貧困が一層進んだように思われます。
- 保護者の収入の減少、職場の衰退・倒産。健全な成長の機会・時間の減少により精神的な貧困を与えた。同世代の子どもたちとともに過ごす生活環境の減少。子ども自身が自分の考えを主張することがこれまで以上に減少した。
- 対面とかの行動・学習が減り、心や内面をくすぐる状況が生まれにくくなってきている。
- 遊び場が減り、家族とともに遊ぶこともなくなり、居場所が確保できず子どもたちがイライラしている。情緒の不安定が目につく。
- 親の離職。学校が休校になったことによる日中の親の負担増。

⑤貧困状態に置かれた子どもはどのような面で困難を抱えているか

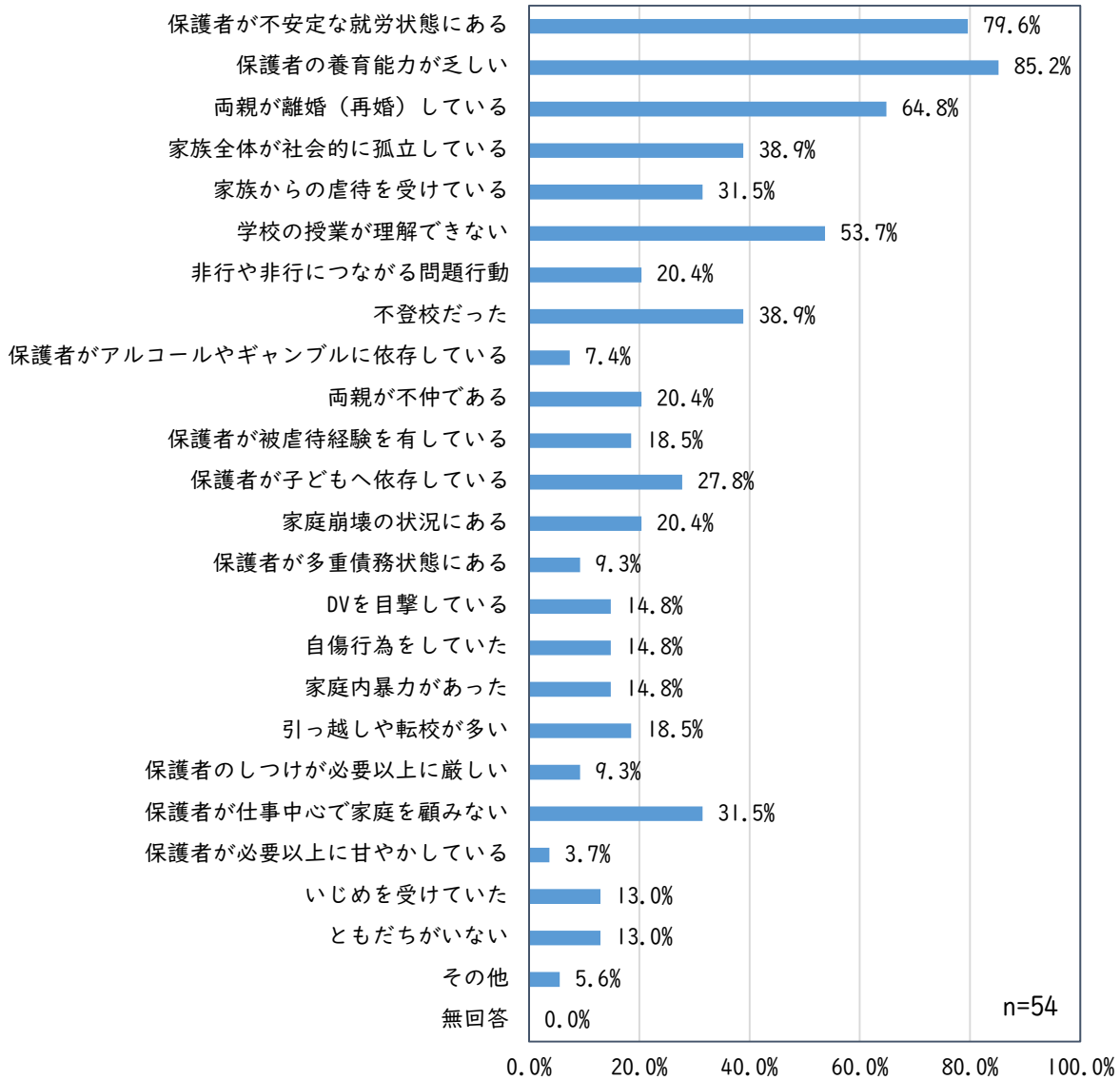
【貧困状態に置かれた子どもはどのような面で困難を抱えていることが多いか】



貧困の状態にある子どもの支援に携わったことがあると回答した団体によると、「こころの状態の安定性、心身の健康」の割合が75.9%と最も高く、次いで「健全な生活習慣、食習慣」が68.5%、「読み書き、計算などの基礎的な学力」が22.2%と続いています。

⑥支援している子どもは成育上どのような経験をしているか

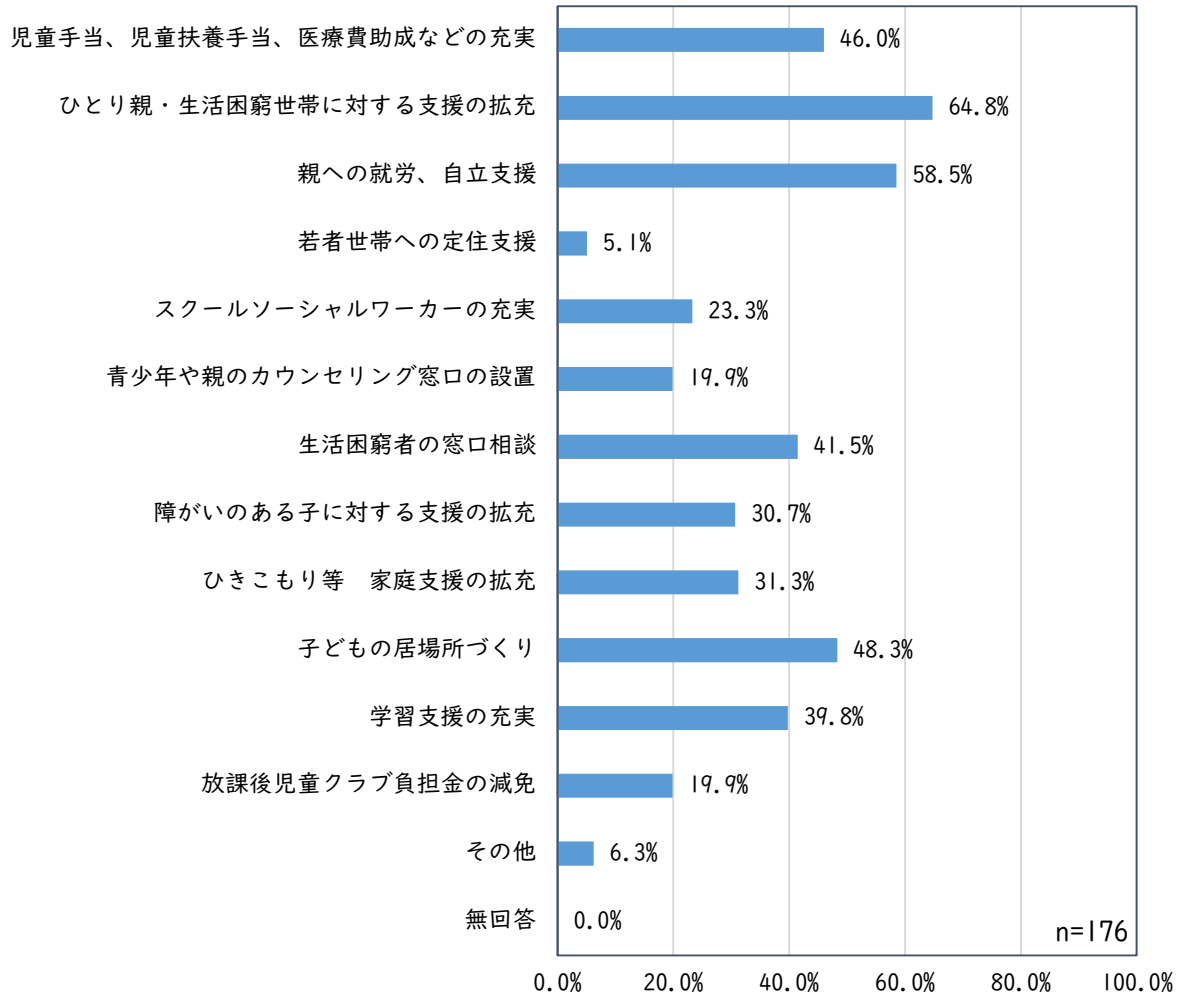
【支援している子どもは成育上どのような経験をしていると思うか】



貧困の状態にある子どもの支援に携わったことがあると回答した団体によると、「保護者の養育能力が乏しい」の割合が85.2%と最も高く、次いで「保護者が不安定な就労状態にある」が79.6%、「両親が離婚（再婚）している」が64.8%と続いています。

⑦ 貧困世帯への支援にあたり、沼津市で推進すべき支援

【貧困世帯への支援にあたり、沼津市ではどのような支援を推進すべきか】



「ひとり親・生活困窮世帯に対する支援の拡充」の割合が64.8%と最も高く、次いで「親への就労、自立支援」が58.5%、「子どもの居場所づくり」が48.3%と続いています。

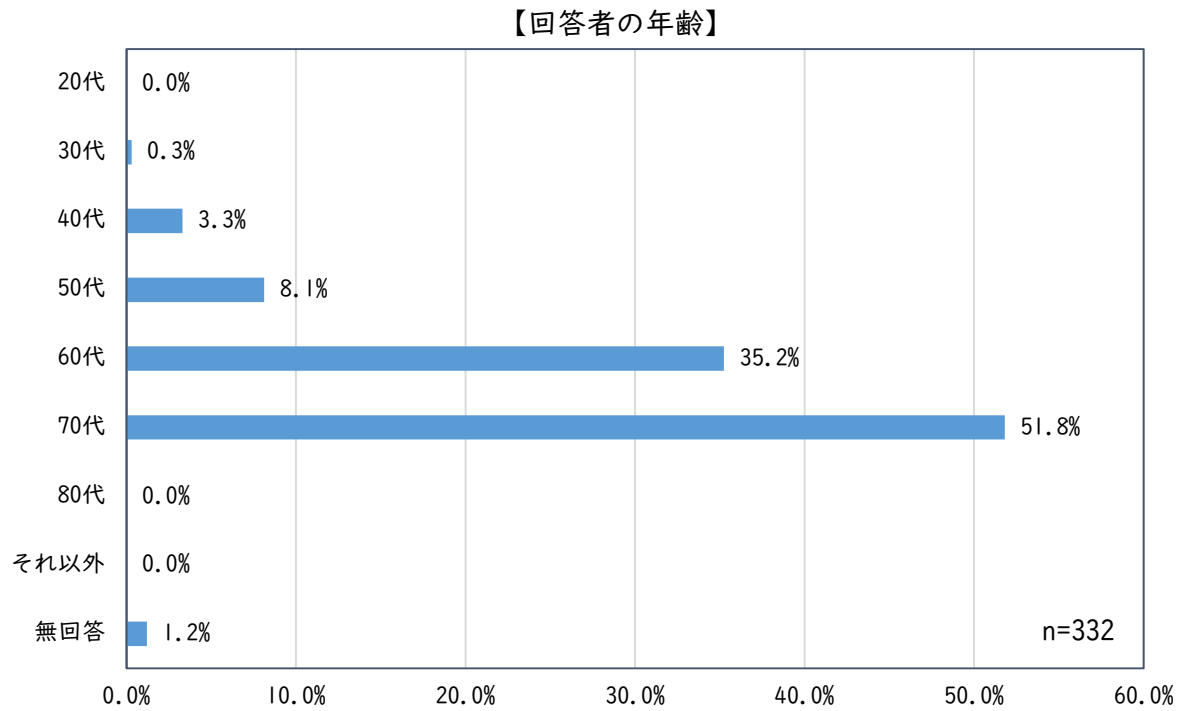


⑧子どもの貧困対策に関する自由意見（一部抜粋）

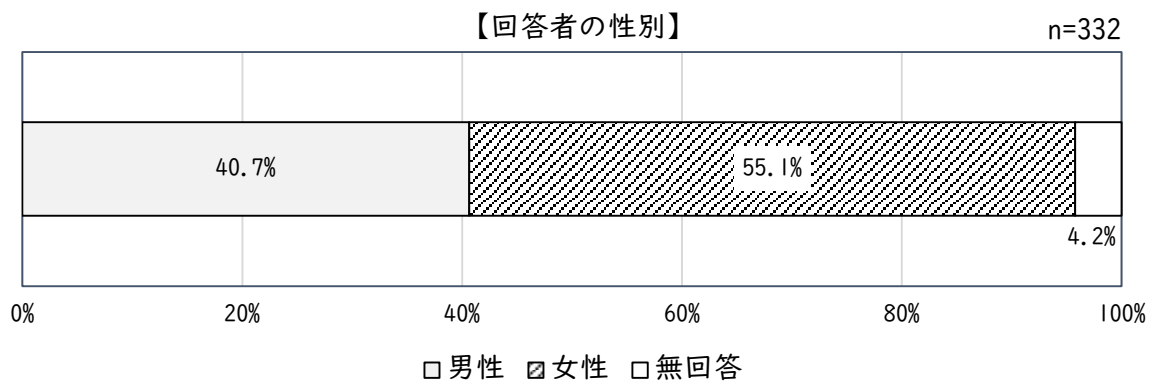
- 家庭の様子を把握し、子どもが安心して生活できるように支援するには、学校の職員だけでなく、地域や行政の力も必要だと思います。連携を取り合い、子どもにとってより良い方法を探り支援していくことができればと考えます。
- なかなか、お預かりしている中で「貧困」は気づきにくく、以前の利用者の中には月謝の払い込みの遅れが目立つ家もあり、母と何度か面談したのですが、両親就労しており、どうした理由での遅れかわかりませんでした。今現在そのような家はないのですが、「心の貧困」と言っているのか金銭的には潤っていると思われるのに靴下の穴の放置や毎日同じおかずのお弁当を夏休み中持参し、子どもは慌てて食事する姿があったりすると心配になります。ひとり親家庭の定期的な面談等の必要性を感じます。
- 子どもにみじめな思い、かわいそうな思いをさせないということが大きなねらいだと思います。貧困の家庭に支援をすることが大切なのではないでしょうか。それ以前のこととして、貧困な家庭をつくらないことがもっと大切だと思います。
- お金の支援（給食費減免や児童手当等）の援助は本当の自立につながっていかないと思います。自立支援や就労の支援、カウンセリング等によって、今の現状をしっかりと見つめ直す支援が必要だと思います。
- 貧困の捉え方は学校関係者と福祉関係機関とで差があるように感じる。その差を埋めるためにも、スクールソーシャルワーカーのような専門職が間に入るべきだと思う。
- 親がしっかり就労する、自立することで子どもの生活や生活リズムを守ることができると思います。子どもはまだ自立できないので親の影響を受けます。物の貧困、心の貧困、将来大人になった時にしっかりと自立できるか心配です。
- 貧困といっても色々なパターンがあり、対応も難しいと感じます。子どもが親の犠牲となるのはかわいそうなので児童の変化や様子をしっかりと捉え、学校等と連携をとっていきたい。保護者によっても周りに知られたくない人もいたので支え方も難しかったです。
- 子どもたちと関わる時は、子どもたちの表情を見たり、先生方から普段の様子を伺ったり、必要な時は民生委員さんと連絡をとったりと、まずは地域全体で見守り、貧困に気付くことが大切だと思います。
- 直接関わったことはありませんが、聞こえてくる問題として孤立しているように思われます。窓口等の設置も大切ですが、子どもが直接気軽に来られる居場所づくりや子どもが話しやすい環境と人づくりが必要。子どもから知り得た情報などから保護者へのアプローチで、信頼を得た上で孤立を防ぎ、相談しやすい状態にしてあげるのも一つの対策かと思います。
- 減免や手当、助成など支援の申請をもっと簡素化できるようにしてもらいたい。周知してもらえるようにしてほしい。
- 貧困家庭の子どもへの配慮をそれぞれの学校で工夫して行っていると思われていますが、他の児童生徒が特別扱いや差別などと感じて、いじめ等に発展しないよう気遣いが必要だと思います。

【調査結果（民生委員・児童委員、主任児童委員用）】

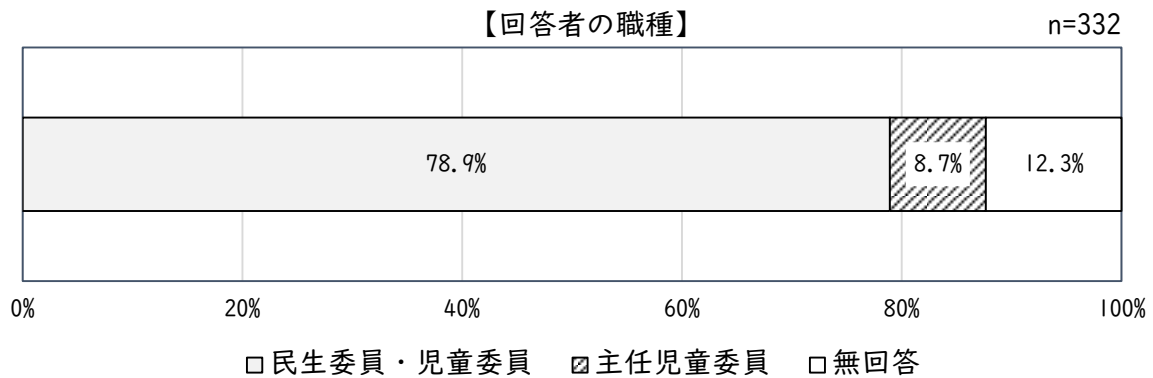
①回答者について



「70代」の割合が51.8%と最も高く、次いで「60代」が35.2%、「50代」が8.1%と続いています。

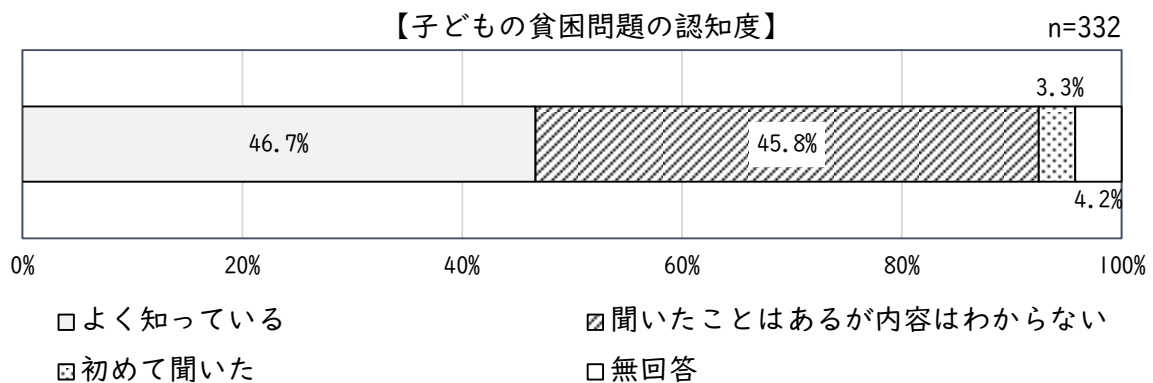


「男性」の割合が40.7%、「女性」の割合が55.1%となっています。



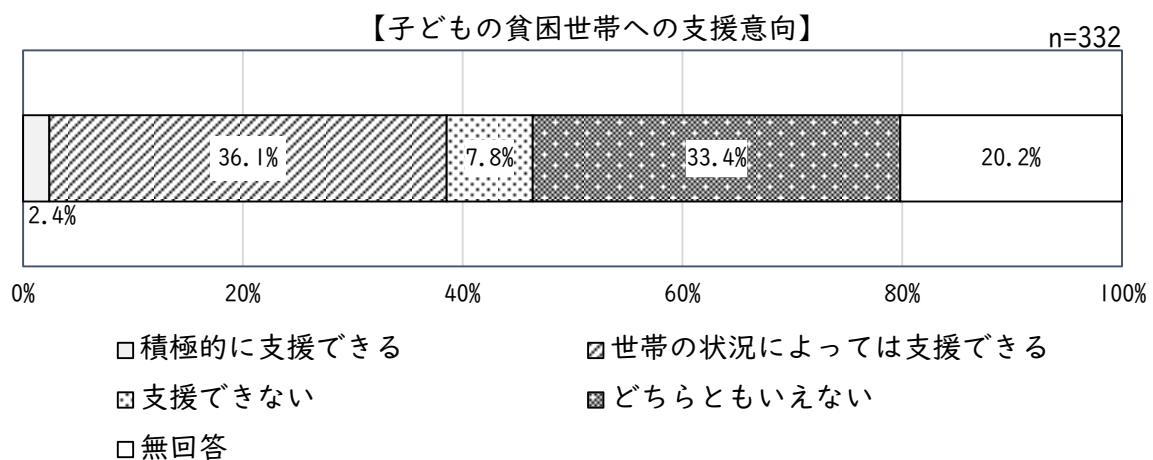
「民生委員・児童委員」の割合が78.9%、「主任児童委員」の割合が8.7%となっています。

②子どもの貧困問題の認知度について



「よく知っている」の割合が46.7%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容はわからない」が45.8%、「初めて聞いた」が3.3%と続いています。

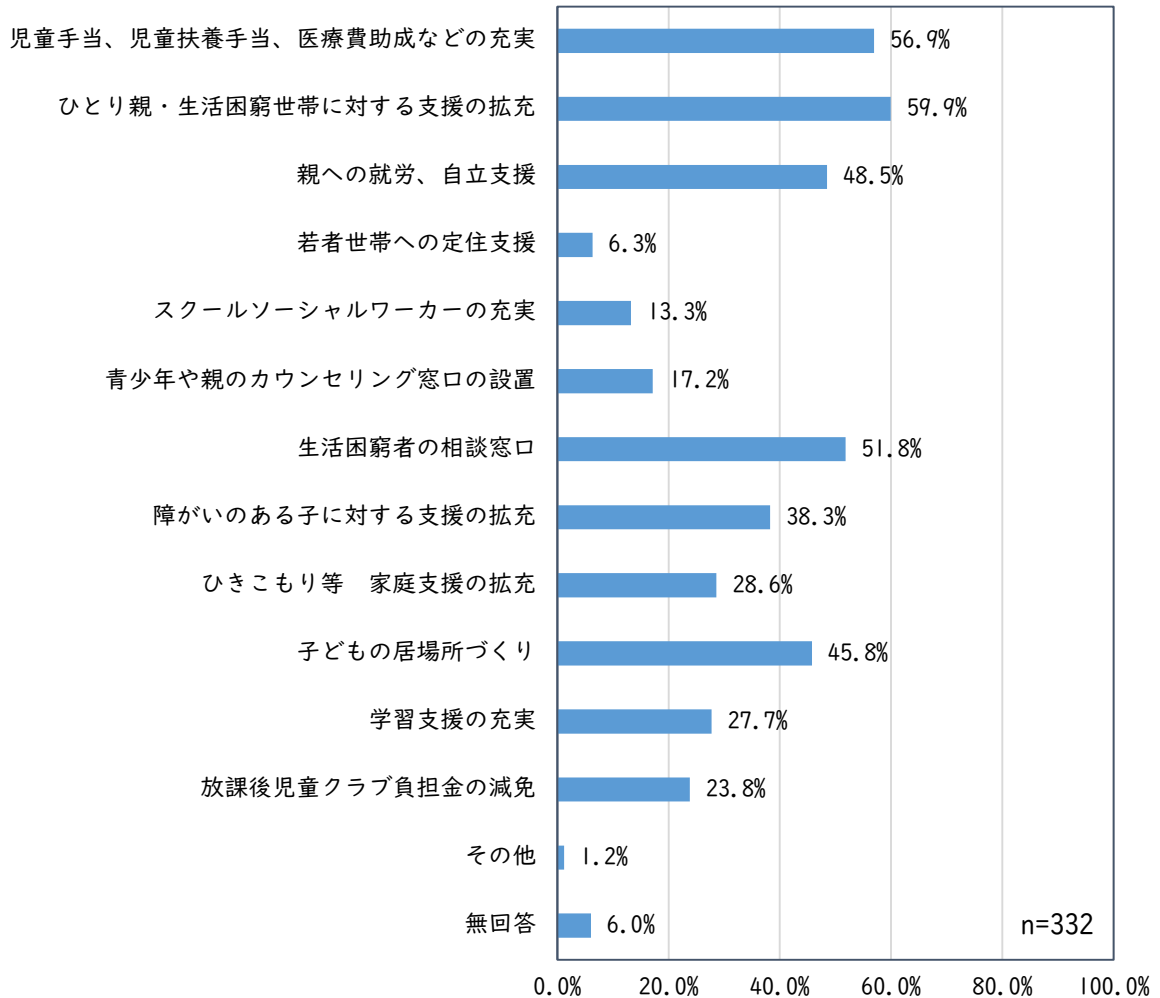
③子どもの貧困世帯への支援意向



「世帯の状況によっては支援できる」の割合が36.1%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が33.4%、「支援できない」が7.8%と続いています。

④ 貧困世帯への支援にあたり、沼津市で推進すべき支援

【貧困世帯への支援にあたり、沼津市ではどのような支援を推進すべきか】



「ひとり親・生活困窮世帯に対する支援の拡充」の割合が59.9%と最も高く、次いで「児童手当、児童扶養手当、医療費助成などの充実」が56.9%、「生活困窮者の相談窓口」が51.8%と続いています。



⑤子どもの貧困対策に関する自由意見（一部抜粋）

- 貧困の子どもが、どこにいるのかわからない現状、プライバシー保護が強すぎて、情報が薄い中では対応は難しい。
- 親がしっかり仕事をしている家庭では貧困はありえないと思います。母子、父子で子どもが小さくて仕事ができない場合は、市で支援をお願いしたいと思います。
- 学習については、しっかり支援してあげてほしいと思います。学びたくても学べないことのないような支援を望みます（将来の就業に影響を与えないと思いますので）。
- 子どもの貧困には様々な原因があると思います。その中で大きな原因の一つとして、親が健康上の理由で働けなくなり、経済的に困窮された場合があると思います。行政の就労支援や地域のコミュニティの協力が必要になると思います。
- まわりから見つけ出してあげる必要がある。毎日通う学校での様子から、そう思われる子のことを民生委員に知らせてもらえると良い。学校と民生委員が連携する。
- 相談窓口など、もっと言いやすい場所にして遠慮なく援助してほしいと言える状態に（自分の状態を知られたくない親子もいるのでは）。
- 経済的に困難な家庭の子は、習い事をしたり、スポーツ少年団などで活動したりすることが難しい。家庭環境で格差が生じ、子ども自身だけの努力では、なかなか埋めることができない。
- 何かできることがあれば、協力したいと思うが、個人の家庭状況がわからない。子どもというよりは、親の責任だと思う。親になりきれない、親が子どもに対して何もしていない、まず親の教育が必要。
- 貧困のため、母親は昼夜働いているため、子どもは夜遅くまで起きていて、朝起きられず学校を休むようになり、不登校ぎみになってしまう。母は仕事を休めないで、子どもとの関わりで困っている。
- 自分の置かれている状況をあまりわかっていない場合や、相談すべきことかも考えてないと思うので、気軽に打ち明けられる環境が必要なのではないかと思います。
- 子どもはもちろんだが、その家族が社会的に孤立しないように、地域全体で支えられる仕組みづくりが必要。
- 潜在的な貧困は多くあると思います。声をあげることができるような環境づくりができればいいと思います。
- 子どもの貧困は家庭の環境を受けることが一番の原因だと思うので、親のカウンセリング、支援を積極的に行ってほしいと思います。親のひきこもりも多々あると思います。
- 親の問題の方が大きいのではないかと思うので、親への自立支援が第一だと考える。相談窓口のPRや告知を積極的に行い、相談しやすいようにすることが大切だと思う。
- ひとり親の支援はよくいわれますが、両親がそろって共働きでも大変な家庭があり、放課後児童クラブの負担金が払えず退所する子がいると聞きます。兄弟だと2人分、3人分は大変だと…。ひとり親だけでなく、低所得世帯のケアをお願いしたいです。

3. 課題の整理

～沼津市の将来を担う子どもたちを誰一人取り残さないために～

「子供の貧困対策に関する大綱」においては、「全ての子供たちが夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指し、子供の貧困対策を総合的に推進する」ことが目的・理念とされています。また、令和元年の一部改正では、基本理念として子どもの最善の利益が優先考慮されること、貧困の背景に様々な社会的要因があること等が明記されました。

全国的な傾向として、ひとり親世帯の中でも圧倒的に高い割合にある母子世帯の生活は苦しい状況に置かれています。

近年では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う生活の変化や、エネルギーや食料品等の物価高騰により、貧困世帯の負担はさらに増えています。

「すべての子どもが夢と希望をもって健やかに成長するために」という、沼津市子どもの貧困対策推進計画の基本理念の実現を目指すために克服すべき課題を考察します。

①教育の支援

保護者・子どもともに、進学先の希望について「大学」が最も多くなっているものの、希望どおり進学すると思うかの問いには、「思う」と回答した方は 37.7%にとどまりました。子どもの貧困世帯では、21.9%とさらに割合は低下しています。進学先の希望が叶わない理由については、「経済的な余裕がないから」が最も多くなっており、無料で利用できる沼津学習支援センターや就学援助制度のさらなる周知や拡充が必要です。

②生活の支援

生活の悩みについては、「子どもの養育費」が最も多く、次いで「生活費」「自身の老後」「健康」「仕事」等が挙げられていました。子どもの貧困世帯でみると、「生活費」「子どもの養育費」の割合が7割以上と高くなっています。また、母親と子どもからなる世帯についても「生活費」と「子どもの養育費」の割合が約6割となっています。資源量把握調査においても、沼津市で推進すべき支援について「ひとり親・生活困窮世帯に対する支援の拡充」の割合が最も高くなっていました。これらのことから、貧困世帯や特にひとり親世帯に対する支援が急務であり、ひとり親世帯が対象である児童扶養手当やひとり親家庭等医療費助成などのさらなる周知が必要であるとともに、悩みの相談先として、「市役所、子育て支援センター等の公的な相談窓口」は 2.1%にとどまっていることから、相談しやすい環境づくりに取り組むことが必要です。

③保護者の就労支援

両親の仕事をしている割合は、前回調査を下回っているものの、「正社員・正規職員」の割合は父親が 82.7%、母親が 32.4%で、前回調査をやや上回っています。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、父親の 21.0%、母親の 18.2%が「収入の減少」があったと回答しており、また、父親の 1.2%、母親の 2.2%が「失業」と回答しています。新型コロナウイルス感染症拡大が

落ち着きを取り戻すことによって、前回調査を下回った両親の仕事をしている割合等は改善されることが期待されますが、それまでの就労支援については引き続き継続していく必要があります。

④経済的支援

本市の子どもの貧困率は9.5%と前回調査時の10.0%より改善されました。一方で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、収入の減少や失業を経験した方がいることや、近年の歴史的円安に伴う物価高の影響を注視する必要があります。また、子育てや子育て世帯に必要なまたは重要だと思える支援についての問いでは、「子どもの進学にかかる費用負担の軽減」が圧倒的に多く(78.8%)、保護者や子どもたちの将来の希望を叶えるためにも、進学に関わる経済的支援が重要となっています。

⑤支援ネットワークの推進・活用

今回実施した児童・生徒調査では、「努力すればできるようになる」「自分には将来の夢や目標がある」「家族は自分を大切にしてくれる」などの日常生活の中で感じる自己肯定感についての問いで、「そう思う」の割合が子どもの貧困世帯では全項目を通した傾向として肯定的な感覚が全体より少なくなっていました。

家庭の環境や事情等が原因となる貧困により、学校の友達等と比較して習い事等をする機会がなかったり、おもちゃや服を買ってもらえなかったり、家族で旅行に行けなかったりする経験をすることで、「自分は価値のない人間だ」と考え、将来への夢や希望を失ってしまう要因になる可能性があります。そして自己肯定感の低下は学力格差を生み出し、学力格差は就学の格差、つまりは所得の格差を生み出します。そして、その子どもたちが親になった時、その子どもも貧困になる可能性があります。

貧困の連鎖を断ち切るためには、経済的支援も大切ですが、学校の先生に悩みを相談しやすい環境の整備や、親や友だちと良い関係を築くための環境の整備も大切であり、それらを市や学校関係者、保護者だけでなく、地域全体で支援のネットワークを築く必要があります。

